

佐賀県文化財年報 16

2020年度

2022.3

佐賀県 地域交流部
文化・スポーツ交流局 文化課 文化財保護室

例 言

- 1 本書は、令和2年度に佐賀県地域交流部文化・スポーツ交流局文化課文化財保護室(以下、「文化財保護室」と必要に応じて略記する)及び佐賀県内の各市町教育委員会が実施した埋蔵文化財発掘調査、普及啓発事業等、文化財保護行政の概要についてまとめたものである。
- 2 本書を作成するにあたり、佐賀県及び県内各市町の関係機関、並びに各文化財担当の御理解と御協力を得た。深く感謝する次第である。
- 3 本書には、令和2年度に佐賀県内において実施された発掘調査のうち、主に記録保存を目的として行った発掘調査(本調査)と、史跡整備や学術調査を目的として行った確認調査の概要について掲載している。
- 4 本書の編集は、佐賀県及び各市町教育委員会の各担当者が執筆した原稿をもとに、文化財保護室文化財指導担当が行った。各執筆者の氏名は、各々の文章末尾に記載した。
- 5 指定・登録等文化財に係る記載については、各指定資料に依拠した。
- 6 標高の表記方法、専門用語、遺構名称等、言い回しの統一をはかるため、作成原稿の内容を一部改変した箇所があるが、これらの文責は編集者に帰するものとする。

目 次

1 文化財保護室の組織と文化財保護の体制	③文化財パトロールの実施…………… 4
(1)文化財保護室の組織…………… 1	④窯跡盗掘対策合同会議の開催…………… 4
(2)佐賀県文化財保護審議会委員…………… 2	⑤文化財保護強調週間の実施…………… 5
(3)佐賀県文化財保護指導委員(文化財全般) …………… 2	⑥第67回文化財防火デー …………… 5
(4)佐賀県文化財保護指導委員(窯跡担当) 2	⑦天然記念物カササギ生息地保護増殖事業 …………… 5
2 事業の内容	⑧銃砲刀剣類登録事務…………… 5
(1)文化財保護体制と文化財普及啓発活動 3	⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動…… 5
①佐賀県における文化財保護体制…………… 3	1)「弥生ロマン体験事業」の実施 …… 5
②文化財保護審議会の運営…………… 4	2)「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」 …………… 6
	⑩「さがヲほるー佐賀県発掘調査成果速報

2020-」展	6
⑪ 県立博物館における普及啓発活動	7
1) 「THIS is SAGA-2つの海が世界と つながり佐賀をつくった-」展(佐賀県立 博物館)	7
2) 開館40周年記念・寄贈記念 特別企画展 高取家コレクション(九州陶磁文化館)	8
3) 開館40周年記念・寄贈記念 特別企画展 柴澤コレクション(九州陶磁文化館)	9
4) 特別展「よみがえれ! 佐賀城本丸御殿」 (佐賀城本丸歴史館)	9
⑫ 市町教育委員会における普及啓発活動	
1) 東名遺跡出前授業(佐賀市)	10
2) 縄文編みかごワークショップ(佐賀市)	11
3) 講演会「縄文貝塚を知る」(佐賀市)	11
4) 企画展「縄文のデザイナー-古代の感性 と美-」(佐賀市)	12
5) 末盧より『西』を臨む-西九州航路の盛 衰と鉄をめぐる動静-(唐津市)	12
6) 遺跡から見る唐津の歴史-黒岩前田遺 跡発掘成果展-(唐津市)	13
7) 体験講座「縄文時代の石器づくり&体 験」(多久市)	13
8) やきものワークショップ(武雄市)	14
9) ふるさとの文化財展(鹿島市)	15
10) 「おぎを掘るXIV~石からみる小城の 歴史~」展(小城市)	16
11) 日本遺産選定記念展示シュガーロード (嬉野市)	17
12) 『天神縁起画伝』限定公開(基山町)	17
13) 「きやまの民俗芸能」展(基山町)	17
(2) 開発事業と文化財保護との調整	18
(3) 文化財の調査(埋蔵文化財発掘調査)	19
① 藤三郎屋敷遺跡(A・B・C・E区)	21
② 名護屋城跡弾正丸東下	

(特別史跡名護屋城跡並陣跡)	22
③ 島津義弘陣跡 (特別史跡名護屋城跡並陣跡)	23
④ 名護屋城跡水手水路 (特別史跡名護屋城跡並陣跡)	23
⑤ 榎木遺跡10区(佐賀市)	24
⑥ 一本黒木遺跡1区(佐賀市)	24
⑦ 思案橋遺跡(佐賀市)	25
⑧ セヶ瀬遺跡3区(佐賀市)	26
⑨ 小川遺跡10区(佐賀市)	27
⑩ 築山遺跡6区(佐賀市)	27
⑪ 長瀬遺跡5区(佐賀市)	28
⑫ 琵琶原遺跡7区(佐賀市)	28
⑬ 宇木汲田遺跡(唐津市)	29
⑭ 唐津城跡本丸(唐津市)	29
⑮ 芳谷炭坑跡(唐津市)	31
⑯ 四ツ木遺跡6区(鳥栖市)	32
⑰ 勝尾城筑紫氏遺跡(鳥栖市)	32
⑱ 関東遺跡(嬉野市)	33
⑲ 古寺遺跡7次調査(基山町)	34
⑳ 檜寺遺跡13区(上峰町)	35
㉑ 西前牟田遺跡5区(上峰町)	36
㉒ 西峰遺跡1区(上峰町)	37
3 令和2年度の指定・登録等文化財一覧	
国追加指定(史跡)	
田代太田古墳(鳥栖市)	38
国登録有形文化財(建造物)	
永井家住宅店舗兼主屋(唐津市)	38
光栄菊酒造通り蔵及び本蔵ほか5件 (唐津市)	38
佐賀県重要文化財(絵画)	
鍋島直大像 百武兼行筆 一面(佐賀市)	38
佐賀県重要文化財(典籍)	
東遊歌風俗歌譜 1巻(佐賀市)	39
佐賀県重要文化財(建造物)	
石造肥前鳥居 1基(杵島郡白石町)	39

佐賀県重要文化財(考古資料)
磯道遺跡出土石器接合資料 7個体
(唐津市)..... 39

4 所載遺跡位置図..... 41

Ⅰ 文化財保護室の組織と文化財保護の体制

(1) 文化財保護室の組織

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1-59 (県庁新館6階)

室長	白木原 宜	文化財指導担当	主な所管業務
副室長	山川 史	係長 長崎 浩	管理担当の総括、文化財保存活用計画
副室長	古川 直樹	係長 宮崎 博司	指導担当の総括、世界遺産調整
		主査 樋口 秀信	国・県所管事業に係る文化財調整
		主査 森 宏章	国庫補助金事務、史跡・名勝・天然記念物関係、現状変更
		主査 小野 将史	県費補助金事務、国・県重文等建造物・重伝建群修理関係
		主査 加藤 裕一	文化財保護法事務(西部)、佐賀城本丸跡埋蔵文化財調査
		主査 渡部 芳久	文化財保護法事務(東部)、佐賀道路・有明海沿岸道路の埋蔵文化財調査
		主査 野畑 征希	育児休暇中
		主査 岩永 亜季	民俗・無形文化財関係、銃砲刀剣類登録
		主事 土井 翔平	文化財保護法事務(中部)、「さがヲほる」展及び発表会
		主事 都留 慎司	佐賀県「歴史の道」調査事業、カササギ保護
		文化財調査担当	主な所管業務
		主幹 小松 譲	文化財調査担当の総括、西九州自動車道文化財調査
		係長 市川 浩文	佐賀道路・有明海沿岸道路文化財調査の総括
		主査 熊谷 吉朗	西九州自動車道文化財調査、文化財調査研究資料室の運営
		主査 竹川 満	佐賀道路・有明海沿岸道路文化財調査、報告書作成
		主査 越知 睦和	佐賀道路文化財調査、文化財調査研究資料室・横武収蔵庫の管理、運営
		吉野ヶ里遺跡担当	主な所管業務
		主幹 今泉 和孝	総務事務の総括、予算・決算、監査・会検、議会
		係長 渋谷 格	吉野ヶ里遺跡調査・管理の総括、現状変更
		係長 川副 麻里子	吉野ヶ里遺跡の活用に関する総括、出土資料管理
		主査 吉本 健一	吉野ヶ里遺跡の活用、弥生ロマン体験事業
		主事 塩見 恭平	吉野ヶ里遺跡調査、調査事務所の管理・運営
		主事 大塚 小百合	総務事務、歳入、共通費、課の財産管理、照会回答、名義後援

(2) 佐賀県文化財保護審議会委員(任期：平成31年4月1日～令和3年3月31日)

部会	専門分野等	氏名	現職名
会長	学識経験者	兒玉 浩明	佐賀大学長
第1部会	絵画・彫刻	井手 誠之輔	九州大学大学院人文科学研究院教授
	建造物	伊東 龍一	熊本大学大学院先端科学研究部教授
	近代美術	吉住 磨子	佐賀大学芸術地域デザイン学部教授
	歴史資料	伊藤 昭弘	佐賀大学地域学歴史文化研究センター准教授
	美術・工芸	野口 朋子	昭和音楽大学講師
第2部会	民俗芸能	金子 信二	前佐賀民俗学会副会長
	工芸	西田 宏子	根津美術館顧問
	陶芸	辻嶋 寿憲	九州産業大学造形短期大学部教授
第3部会	史跡・埋蔵文化財(近世)	渡辺 芳郎	鹿児島大学法文学部教授
	史跡・埋蔵文化財(弥生・古墳)	重藤 輝行	佐賀大学教育研究院教授
	史跡・埋蔵文化財(古墳)	宮元 香織	北九州市立自然史・歴史博物館歴史課学芸員
第4部会	植物	三島 美佐子	九州大学総合研究博物館准教授
	名勝	藤田 直子	筑波大学芸術系教授

(3) 佐賀県文化財保護指導委員(文化財全般 任期：令和2年4月1日～令和3年3月31日)

氏名	担当地区(市町)	氏名	担当地区(市町)
久保山 彰	基山町	本村 昌敏	江北町・大町町・白石町(有明・白石・福富)
黒田 達也	鳥栖市	草場 敦宏	武雄市(武雄・山内・北方)
藏戸 秀章	みやき町(中原)	森 平一郎	伊万里市
田中 淳	上峰町・吉野ヶ里町(東脊振・三田川)	三ヶ尻 登志彦	有田町(有田・西有田)
杉山 珠巳	神埼市(神埼・千代田)	藤田 浩久	唐津市(浜玉・巖木・相知・北波多・七山)
堤 安信	佐賀市(三瀬・富士・大和)	紫藤 芙美	唐津市(唐津)
横尾 昭信	佐賀市(佐賀・諸富・川副・東与賀・久保田)	濱口 尚美	唐津市(呼子・鎮西・肥前)・玄海町
香月 浩	小城市(小城・三日月・牛津・芦刈)	池田 章	鹿島市・太良町
向 喜一郎	多久市	佐々木 忠俊	嬉野市(嬉野・塩田)

(4) 佐賀県文化財保護指導委員(黨跡担当 任期：令和2年4月1日～令和3年3月31日)

氏名	担当地区	氏名	担当地区
小笠原 博	大川内山	山下 利男	板川内・筒江
本山 義宣	椎ノ峯	山口 増広	内野山・不動山
溝上 良博	提ノ川	藤川 孝司	岸嶽
丸田 延親	黒牟田	吉永 勝	有田(西有田)
古賀 末廣	川古	吉永 登	有田
久保 正敏	弓野	大串 和夫	有田

2 事業の内容

(1)文化財保護体制と文化財普及啓発活動

①佐賀県における文化財保護体制

諸開発に対する文化財保護行政体制の整備、及び普及啓発事業の充実を図るため、文化財保護室では埋蔵文化財・有形文化財・無形文化財・民俗文化財・記念物等について、破壊・滅失・毀損等の防止に努め、市町に対しては、文化財保護行政機構の整備、各市町制定の文化財保護条例に基づく指定の促進を指導しているところである。

下表に示すとおり、市町における文化財専門職員は、令和3年3月現在で10市8町の61名が配置されている。

市町における文化財専門職員一覧

市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名	市町名称	職員氏名
佐賀市	木島 慎治	唐津市	黒田 裕一	小城市	田久保 佳寛
	角 信一郎		岩尾 峯希		永田 稲男
	松本 隆昌		草場 誠司		太田 正和
	楠本 正士		美浦 雄二		本村 浩二
	西田 巖		坂井 清春		前田 佳奈子
	中野 充		立谷 聡明	嬉野市	輪内 遼
	三代 俊幸		鮎川 和樹	吉野ヶ里町	河野 竜介
	山口 一郎		築城 昇平		久保 伸洋
	山口 亨		松尾 真里帆	基山町	主税 英徳
	馬場 晶平		久山 高史		坂井 貴志
	権丈 和徳		湯浅 満暢	上峰町	原田 大介
谷澤 仁	内野 武史	伊達 有彩			
多久市	高塚 啓介	鳥栖市	島 孝寿	みやき町	太田 睦
	岩永 雅彦		龍 孝明		久保田 陽香
伊万里市	船井 向洋		岡田 晴菜	有田町	村上 伸之
	一本 尚之	藤岡 怜史	伊達 惇一朗		
	藪 遙菜	鹿島市	加田 隆志	大町町	岩永 憲二郎
武雄市	樋渡 拓也	神埼市	桑原 幸則	江北町	西村 秀昭
	松瀬 京子		佐藤 健一	白石町	渡部 俊哉
	戸田 龍造		島 佑輔		宮木 聖子
			高柳 信敏		

②文化財保護審議会の運営

文化財保護審議会は、知事の諮問に応じ、佐賀県文化財保護条例に規定される事項、その他文化財の保存や活用における重要事項等の調査・審議を行い、その内容を知事に建議した。

1)審議会の開催

令和2年8月3日 第3回文化財保護審議会 令和2年度県指定文化財の諮問

令和3年3月18日 第4回文化財保護審議会 令和2年度県指定文化財の審議及び答申

審議会における各部会の開催状況一覧

部会の名称	開催日	審議内容
第1部会	令和2年8月3日	県内の有形文化財(考古資料を除く)及び有形民俗文化財に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
第2部会	令和2年8月3日	県内の無形文化財及び無形民俗文化財に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和3年3月18日	
第3部会	令和2年8月3日	県内の史跡、埋蔵文化財及び考古資料に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和3年3月18日	
第4部会	令和2年8月3日	県内の名勝及び天然記念物に関する県文化財指定候補の検討・調査・確認等
	令和3年3月18日	



審議風景



答申

③文化財パトロールの実施

文化財保護指導委員(文化財全般担当18名、窯跡担当12名、計30名)が県内各地域を分担し、国・県の指定文化財、埋蔵文化財包蔵地に対し定期的な巡視を行い、文化財の滅失・毀損の防止及び早期発見に供するとともに、市町の文化財担当職員等と連携し、地域住民の文化財に対する理解を深めるための普及啓発活動を実施した。また、当該年度の文化財保護事業の概要説明、委員の文化財保護・普及啓発への理解促進、巡視の結果報告、生じた課題とその対策の共有等を目的に文化財保護指導委員会を例年2回開催している。本年度は第1回が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となり、第2回は12月23日に佐賀市内で開催し、19名が出席した。

④窯跡盗掘対策合同会議の開催

県内に300を越えて所在する窯跡は「肥前古窯跡」の多くを占める。盗掘被害に対し、警察・マスコミと連携して情報共有、具体的な対策を講じるとともに、保護処置の対象とするため窯跡の史跡指定を進め、県及び市町における文化財保護条例を改正し罰則の強化を図ってきた。その成果が実を結び、盗掘被害は0件であったため、引き続き対策を講じることを確認し、本年度の会議は開催しないこととした。

⑤文化財保護強調週間の実施(令和2年11月1日～7日)

本年度の文化財保護強調週間は、第67回にあたり、期間中は文化財に親しむことを目的とし、県及び各市町において多くの事業が実施されている。

⑥第67回文化財防火デー(令和3年1月26日)

文化財防火デーは、昭和24年1月24日の法隆寺金堂の火災で壁画が焼損したことを契機に制定され、毎年1月26日を中心に文化財を火災から守るための取組みが全国各地で展開されている。

佐賀県では、令和3年1月18日に佐賀県立博物館・美術館からの出火を想定した火災訓練を実施したが、市町実施の訓練は新型コロナウイルス感染症のため中止が相次いだ(25機関中12機関)。

⑦天然記念物カササギ生息地保護増殖事業

4月～7月初旬にかけて県施設敷地内にプレハブを仮設し、繁殖期に巣から落下したカササギ幼鳥の保護を実施した。本年度に保護した幼鳥数は26羽である。

⑧銃砲刀剣類登録事務

銃砲刀剣類所持等取締法及び佐賀県銃砲刀剣類登録審査委員に関する規則の定めるところにより、登録審査委員3名、登録審査補助員1名を任命し、年間6回、奇数月において審査会を開催した。令和2年度の実績は、新規登録が59件、登録証再交付が26件、美術刀剣類製作承認が0件となった。

⑨吉野ヶ里遺跡に係る普及啓発活動

1)「弥生ロマン体験事業」の実施

吉野ヶ里遺跡展示室は、令和2年度より所管が佐賀県立博物館から佐賀県文化・スポーツ交流局文化課文化財保護室へと移った。毎年県内の小中学校を対象に吉野ヶ里遺跡展示室及び展示室西側芝生広場(吉野ヶ里歴史公園内)周辺で勾玉づくり・火起こしを体験する弥生ロマン体験事業を行っている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大および全国への緊急事態宣言発出(2020.4.7～5.6)に伴い、4月1日～5月31日の2ヶ月間、吉野ヶ里遺跡展示室を休館しており、勾玉づくり・火起こしを体験が受付できない状況となった。その後、2020年6月1日以降は新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、学校単位(約数百人)からクラス単位(約30人)での受け入れへ変更した。また、火起こし体験は体験中の飛沫拡散防止のため、一旦休止としている。

当事業は、次世代の文化財保護を担う子ども達が弥生時代の技術の習得や生活の一部の実体験により、考古学への関心や吉野ヶ里遺跡への理解を深めるための事業であり、文化課文化財保護室職員が児童生徒に対し、興味関心を持ってもらうように促している。

令和2年度は、県内の小中学校54校が参加し、2,415名の児童生徒が体験学習を行った。

(塩見 恭平)



勾玉づくり体験の様子

2)「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」

令和2年度は、国庫補助事業「地域の特色ある埋蔵文化財活用事業」にて吉野ヶ里遺跡より出土した人骨(渡来系弥生人)と佐賀県東松浦郡唐津市に所在する大友遺跡より出土した人骨(在来系弥生人)を対象に佐賀大学医学部の川久保善智先生協力のもと、弥生人の復顔像2体の作成を行った。骨だけでは当時の人の顔を想像することは難しいことから、弥生時代の人をより身近に感じることができるように、復顔という学術的な手法を用いて、弥生人の顔を復元した。

復顔像の作製は出土した頭蓋骨から3Dプリンターで模型を作成し、次に人骨の特徴をもとに研究者が粘土で肉付けし、さらに専門業者が繊維強化プラスチックで成形して質感の調整や肌の色付けをして完成する。当事業に関連して基山町庁舎内(2020.12.1～12.11)、小城市立歴史資料館(2020.12.14～12.25)、唐津市末盧館(2021.1.19～2.7)、佐賀市立図書館(2021.1.6～1.17)、イオンモール佐賀大和(2021.2.16～2.23)にて県民へより遺跡への理解を深めてもらうため出張展示を行った。また、2021年3月6日に弥生人復活!講演会「リアル弥生人に会いに来て!」を開催し、復顔像のお披露目をし、その後、吉野ヶ里遺跡展示室にて復顔像の企画展(2021.3.7～3.21)を行った。(塩見 恭平)



復顔像と人骨模型の展示の様子

⑩「さがヲほる - 佐賀県発掘成果速報2020-」展の開催

佐賀県内では、住宅建設などの各種開発に伴う発掘調査や、遺跡の整備や保存を目的とした調査が

企画展 佐賀県発掘成果速報2020

隠れた名品 初公開



「佐賀市高島古墳の石室から発見された副葬品。国内では数例しか確認されていない三又鍬(写真中央上)が被葬者に供えられていた。(佐賀県蔵)」

佐賀県内の発掘調査で発見された最新の調査成果を公開する展不会「さがヲほる」が県立博物館3階の第3展示室にて6月16日から開催される。唐津城跡から出土した江戸時代の貨幣である丁銀など、佐賀県最新の調査成果が一堂に集まる。なかでも、佐賀市大和町に所在する高島古墳の三又鍬など被葬者に供えられた古墳時代の副葬品は朝鮮半島から持ち込まれた可能性が高く、佐賀とアジアの交流を物語る重要資料として必見である。

さがヲほる

観覧無料

6月16日[火] - 8月23日[日]

休館日：毎週月曜日(休日の場合は開館し、翌平日が休館)
開館時間：午前9時30分～午後6時

佐賀県立博物館3階 第3展示室

SAGA
HORU

「佐賀県発掘調査速報2020」チラシ

年間600件以上行われており、その成果とともに数多くの出土品が見つかっている。このような発掘調査成果をいち早く県民の方々に公開するために、佐賀県では毎年、発掘成果速報展を開催している。令和2年度は、展示名称を「さがヲほる - 佐賀県発掘成果速報2020-」とし、佐賀県立博物館にて2ヵ月弱の期間で展示を行い、佐賀市七ヶ瀬遺跡出土の祭祀土器、唐津市唐津城跡出土の丁銀、多久市牟田辺遺跡9号墳副葬品など、多様な遺物を展覧した。

また、過去に行われた発掘調査の出土品のうち、これまで展示する機会に恵まれなかったものや、最新の研究により新たな価値が見出されたものを対象とし、佐賀市高島古墳副葬品や小城市土生遺跡出土木製品が展示された。

さらには、令和2年4月に新たに指定された佐賀県重要文化財等を、実物やパネル資料で展示した。(加藤 裕一)

① 県立博物館における普及啓発活動

1) 「THIS IS SAGA - 2つの海が世界とつなぎ佐賀をつくった-」展(佐賀県立博物館)

本展覧会は、昭和45年(1970)10月14日に開館した佐賀県立博物館が、令和2年(2020)に50周年を迎えた節目となる本格的な企画展である。これまで資料の収集や恒久的な保存を目的としていた佐賀県立博物館が、50周年の節目に、今後の博物館の在り方を考えるうえで来館者に従来と異なった展示が可能かどうかを伝えていくことに力点を置いた展示を計画した。

佐賀県には朝鮮半島・中国大陸と繋がる玄界灘と波穏やかな内湾の有明海という特色ある2つの海を持つ。この海を利用して行われた約35,000年間の国内外との交流の歴史を旧石器時代から明治維新後までを展示を通じて振り返った。

旧石器時代・縄文時代では、約35,000年前に利用が開始された伊万里市腰岳の黒曜石の広がりとその特性を唐津市磯道遺跡出土の石刃等や佐賀市富士町地蔵平遺跡出土品から紹介した。また、東アジア最古の低湿地遺跡として知られる佐賀市東名遺跡出土の網かごを取り上げ、縄文海進とその後の有明海の環境の変化を分かりやすく解説した。弥生・古墳時代では、朝鮮半島から渡ってきた稲作が定着した唐津市菜畑遺跡の出土品や炭化米などの出土資料や佐賀ブランドとして知られる福田形銅鐸や綾杉文様を持つ中広形銅矛などを展示し、佐賀における弥生時代の特質について触れた。また、古墳時代の出土品として、九州では珍しい多久市牟田辺遺跡出土の金銅製帯金具や佐賀市関行丸古墳出土の金銅製半筒形装飾具等の金銅製品から大陸・半島との交流の一端を明らかにした。

奈良時代は、国宝に指定されている『肥前風土記』(個人蔵：香川県立ミュージアム寄託)を約40年振りに展示するとともに佐賀市に存在した奈良時代寺院の名称である「椅寺」と記された千葉県成田市出土の「宝亀5年」の紀年銘入りの奈良時代の梵鐘を公開した。平安時代は、当時の中国(北宋・南宋)から入手した県内出土の輸入貿易陶磁や薩摩塔、「茶」にまつわる『喫茶養生記』(再治本)や天目茶碗(聖福寺蔵)の展示を通じ、有明海を通じた日宋貿易の拠点の一つであり、茶の発祥地である佐賀を紹介した。

桃山時代は、天下人である豊臣秀吉が朝鮮出兵の拠点として肥前名護屋(唐津市肥前町)に築いた名護屋城を描いた「肥前名護屋城屏風絵図」(佐賀県蔵)や「朝鮮軍陣屏風図」(鍋島報公会蔵)の展示を行



THIS IS SAGA 展示状況



THIS IS SAGA 見学状況

い、一時的に出現した巨大都市名護屋の様子や慶長の役(1596～1598)の厳しい戦いの一端を紹介した。

江戸時代では、東インド会社を通じて輸出され人気を博した「有田焼」を取り上げ、有田焼がヨーロッパに輸出されるとその人気の高さから当地のブランド品となり、有田焼とドイツのマイセンやフランスのシャンティー等のヨーロッパ地域の各窯で模倣された陶磁器を並べて展示した。また、黄檗宗を通じ学んだ煎茶文化を京都に広めた「売茶翁」こと月海元昭と親交のあった奇想の画家と呼ばれる伊藤若冲の作品の展示を行った。

展示の最後には、明治維新後、日本が西洋の技術を学ぶ中、鍋島直大の洋行に同行した佐賀出身の百武兼行が学んだ油彩画について、その意義に触れながら洋画の裸婦像の初例である「裸婦立像」を展示した。

今回の展示では、有明海及び玄界灘の2つの海を通じ、世界各地と繋がっていた佐賀をヒト・モノ・コトの観点から取り上げた。佐賀の先人は行き交った文化をいち早くかつ柔軟に取り入れるとともに、更に発展させ、現在に遺した。また、その先人の「志」は、現在ものづくりや芸術の中に息づいている。

この特別展では、先人の「志」を今一度再確認するとともに、県内外の多くの方々に「SAGA FAN」になってもらうよう佐賀の先進的で傑出した「THIS IS SAGA」(これぞ佐賀)を紹介した。(細川 金也)

2)開館40周年記念・寄贈記念 特別企画展 高取家コレクション(九州陶磁文化館)

唐津の炭鋳王、高取伊好氏と志那夫人、嗣子の九郎氏は、炭鋳経営で成した財を投じ地域の発展に尽力された。その社会貢献は、文化・観光振興、唐津焼の再興支援まで多岐にわたる。伊好氏は唐津城本丸の西南の地に日本有数の近代和風建築である邸宅(重要文化財「旧高取家住宅」)を建てると、お膝元である肥前を中心とした国内外の上質なやきものを集めて、全国からの賓客を茶会や宴席でもてなす交流の場とした。

令和2年(2020年)5月23日(土)から7月12日(日)まで開催した展覧会では、このたび当館へ寄贈された648件1,700点と、昭和61年(1986)に寄贈頂いた1件1点、平成19年(2007)に寄贈頂いた540件1,727点を合わせた総数1,189件3,428点の旧高取邸の陶磁器の中から、古唐津茶碗「玄海」(佐賀県重要文化財)をはじめとする茶陶や古伊万里、鍋島など多彩な作品を紹介した。(宮木 貴史)



高取家コレクション展 展示風景(1)



高取家コレクション展 展示風景(2)

3)開館40周年記念・寄贈記念 特別企画展 柴澤コレクション(九州陶磁文化館)

佐賀県立九州陶磁文化館は、昭和55年(1980年)11月1日に開館し、令和2年(2020年)に40周年を迎えた。開館以来、肥前地域を中心とする九州の古陶磁について調査研究を進めた実績が所蔵者・蒐集家の信頼につながり、柴田夫妻コレクションをはじめ多くの古陶磁を寄贈いただく契機にもなった。

令和2年(2020年)10月16日(金)から12月13日(日)まで開催した展覧会でお披露目した「柴澤コレクション」も館の活動の中で寄贈の契機を得たコレクションである。

故 柴澤一仁氏は、新潟や山形に伝わった江戸時代の肥前磁器(古伊万里)の探求・蒐集に約45年にわたって情熱を注がれた。平成28年(2016年)に寄贈いただいた砂目積み小皿等の貴重な作品2件8点と、平成30年(2018年)に急逝された後、生前の意思により令和元年(2019年)に遺族から寄贈された430件1,171点の作品を合わせて、432件1,179点が柴澤コレクションとして当館に所蔵されることになった。(宮木 貴史)



柴澤コレクション展 展示風景(1)



柴澤コレクション展 展示風景(2)

4)特別展「よみがえれ!佐賀城本丸御殿」(佐賀城本丸歴史館)

令和3年(2021)1月22日～3月7日

佐賀県立佐賀城本丸歴史館(以下、「本丸歴史館」)では、明治維新150年「肥前」顕彰事業に伴い、佐賀城本丸跡で平成29・30年度に実施された発掘調査や復元整備事業の成果について、特別展を行った。展示は、本丸歴史館内の4箇所で行われた。外御書院四之間では、これまでの発掘調査成果や当時の差(設計図:「佐賀城御本丸差図」等)をもとに全体を復元した佐賀城本丸御殿のCG映像や平成29・30年度の発掘調査成果をパネル等で紹介した。御三家座では、本丸歴史館建設前に実施した過去の発掘調査成果や、関係絵図や古写真が展示され、本丸御殿の特徴及び復元の過程が紹介された。また、御小書院(特別展示室)では、平成29・30年度の発掘調査で出土した瓦類や文字銘磁器、鍋島焼をはじめとする多様な遺物の展示・紹介を行った。外では、本丸御殿の未復元部分(約5,000m²)を発掘調査成果や差図をもとに建物の輪郭や間取りを実寸で平面表示した。



展示(外御書院四之間)

展示関連イベントとして、本丸歴史館学芸員等による講演会「歴史館ゼミナール」が行われた。また、奈良大学文学部文化財学科教授 千田嘉博氏による記念講演会「佐賀城本丸はここがスゴイ！」が佐賀県立美術館ホールで開催され、300名近くの聴講者を得た。
(加藤 裕一)



記念講演会



佐賀城本丸御殿の平面表示(上が北)



歴史館ゼミナール



展示(特別展示室：御小書院)

⑫市町における普及啓発活動

1) 東名遺跡出前授業(佐賀市)

本格的な歴史学習を始める小学6年生を対象に、東名遺跡の特徴と縄文時代をしっかりと学んでもらうため、クラス毎に2時間(45分間×2)の授業を行った。令和2年度で9年目。授業では各班(4～6人)に、実際の出土遺物をケースに入れた出前授業キットを準備、実際に手にとって観察できるようにし、解説には実物資料の他、パネルやパンフレットを使用し、視覚的に理解できるように配慮した。



出前授業風景(1)

また、内容については、歴史学習に取り入れやすいように、なるべく時代背景などにも触れ、縄文時代の単元として活用できるように工夫した。

令和2年度は、6月～9月にかけて実施し、コロナ禍ではあったが、小学校10校、754人の6年生を対象に授業を行うことができた。アンケートの集計結果から、授業について9割近い児童が

興味を示し、内容についてもほとんどが概ね理解できたと回答しており、授業の効果は十分得られたものと考えられる。(西田 巖)



出前授業風景(2)

2) 縄文編みかごワークショップ(佐賀市)

東名遺跡の最大の特徴である編みかごを取り上げ、クラフトテープで小型のかごを作るワークショップを行った。実際に編んで作成することで、縄文人の感性や技術の高さを知ることができると同時に、東名遺跡への関心を高め、その重要性を認知させることを目的とした。

令和2年度は、佐賀県立博物館50周年特別展に東名遺跡出土編みかごが展示されるため、その関連事業として佐賀県立博物館と共催で行った。令和2年10月10日(土)に佐賀県立美術館の画廊で、親子向けに開催した。当日の参加は保護者も含め29人であった。アンケートの集計結果によれば、縄文人の感性や技術を知る上で有効であり、内容的にもおもしろかったという意見が多く、当初の目的は概ね達成できた。(西田 巖)



ワークショップ風景(1)



ワークショップ風景(2)

3) 講演会「縄文貝塚を知る」(佐賀市)

東名遺跡の特徴である「貝塚」に注目し、「縄文貝塚を知る」と題した講演会を令和2年12月5日(土)に佐賀市立図書館・多目的ホールで開催した。

「縄文貝塚を知る」シリーズは、昨年度行ったシンポジウムも合わせ3回目、今回は北陸地方を代表する鳥浜貝塚(福井県)と小竹貝塚(富山県)を取り上げ、遺跡の調査成果とともに整備・活用の取り組みについて講演していただいた。鳥浜貝塚は福井県若狭町歴史文化課の小島秀彰氏、小竹貝塚は富山県文化振興財団の町田賢一氏にお願いした。小島氏は新型コロナウイルス感染症対策のためリモートでの講演となった。

参加者は48人(コロナ禍のため定員50人)で、県外の参加が3割程度を占めた。アンケートなどから講演会の内容は概ね好評で、他県の状況を学ぶ以外に、東名遺跡を保存・活用していく上で、



講演会風景(1)



講演会風景(2)

他の類似遺跡と連携する必要があり、その足がかりとしても有効であった。(西田巖)

4)企画展「縄文のデザインー古代の感性と美ー」(佐賀市)

「縄文のデザインー古代の感性と美ー」と題し、東名遺跡から出土した装身具類を中心にデザイン性に優れた出土遺物を展示し、縄文人の感性や美的センスについて解説した。また、佐賀市内の弥生・

古墳時代の遺跡で出土したデザイン性に優れた遺物についても比較展示した。令和2年10月28日～令和4年2月7日まで、以下の3会場でリレー展示を行った。(西田 巖)

【東名縄文館】令和2年10月28日～12月6日 / 35日間 / 329人

【吉野ヶ里遺跡展示室】令和2年12月10日～令和3年1月17日 / 38日間 / 12,761人

【市立図書館中央ギャラリー】令和3年1月21日～2月7日 / 16日間 / 546人

●合計89日間 / 13,636人



企画展風景(市立図書館)



企画展風景(東名縄文館)

5)末盧より『西』を臨むー西九州航路の盛衰と鉄をめぐる動静ー(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館 【展示期間】令和2年12月8日～令和3年2月7日



企画展示外看板

本展示は、現在の唐津市周辺域と、その東西南北に位置する諸地域との移動を再確認するために企画したシリーズの一つ目として開催した。今回は、唐津市以西のいわゆる西北九州と呼ばれる西側地域の資料を中心に借用し、「貝」・「玉」・「鏡」・「鉄」の大きく四種類の遺物から、唐津平野と西北九州地域の関連性ととも、各地域の独自性についても紹介を行った。

展示の主題としては、弥生時代の末期に唐津市の中原遺跡で行われていた活発な鉄器生産について、各鉄器の製作技法を説明しつつ、中原遺跡で行われていた鉄器製作が、集落の盛衰と深く関わっていたことについて周知化を図った。

期間内の入館者数は201人であり、12月19日に開催した

関連講演会では、64人の参加者に恵まれた。新型コロナウイルスの感染拡大の中で開催した企画展・講演会であったため、県外の方々は来館することが出来なかったこともあり、展示パンフレットや講演会資料に関する送付依頼が多くあった。

中原遺跡から出土した豊富な遺物群は、時期や器種を問わず、唐津平野を代表する品々が揃っているため、今後も展示会を企画し、発掘調査成果の再整理・詳細把握に務めたい。(立谷 聡明)



展示状況

6)遺跡から見る唐津の歴史—黒岩前田遺跡発掘成果展—(唐津市)

【展示会場】唐津市末盧館

【展示期間】令和2年8月4日～11月23日

平成30年度に本発掘調査を行った、黒岩前田遺跡の報告書を令和元年度末に刊行し、整理作業が一区切りとなったことを受け、調査成果を市民に還元することを目的に企画展を実施した。

企画展の内容としては、河川氾濫に伴う洪水砂の堆積状況から、丘陵上部へ洪水を避けるように変遷していく弥生時代後期～古墳時代前期の集落も様相を紹介しつつ、展示の目玉として、「遺跡から出土土器と胎土が酷似した粘土塊や、意図的に砕かれた土器片が竪穴建物から出土し、全国でもまれな土器製作工房を発見した可能性がある」との趣旨で記者発表も行った。

期間内の入館者数は395人であり、コロナ対策として参加者を制限した展示解説においては、定員ギリギリの10人の参加があった。

(立谷 聡明)



粘土塊と土器碎片



展示解説状況

7)体験講座「縄文時代の石器づくり&体験」(多久市)

佐賀県立博物館・美術館より多久市教育委員会へ「夏休み子供ミュージアム2020体験講座」の縄文時代石器作り実演&体験についての講師依頼があった。多久市は①石器の素材に多用された安山岩の原産地であり、その調達に現在でも容易であること、②国庫補助事業・原産地遺跡群調査の実施中でありその周知が必要なことから、承諾することになった。実施にあたっては博物館と協議し事業計画を立てた。(実施日時 令和2年8月13日)

事業計画

(a)製作物 木製の柄付きナイフ(ナイフの素材は、多久産の安山岩)



当日製作の木製柄付きナイフ

(b)方法

ア)石器製作については剥片まで多久市で準備し、それに二次加工(刃潰し加工)を各自行ってもらい、木製の柄に装着するまでを行う(装着は講師が主に行う)。接着材は膠、緊縛用の紐は樹皮の皮・カラムシ紐を使用し、縄文時代の自然素材の使用感を感じられるようにする。

イ)当日の進行について

・参加人数 午前・午後の二回に分けそれぞれ

20名程

・進行順 博物館内の常設展示を巡回→石器製作のデモンストレーション→石器製作体験

(c)その他 怪我防止のため、長ズボンと靴の着用を事前周知

実施について

午前・午後ともに各自1本ナイフを製作することができ、怪我もなく事業を終えた。(岩永 雅彦)



陶片(再整理資料) 技法ごとに分けて、解説

8)やきものワークショップ(武雄市)

発掘調査で出土した遺物を再整理して保管・活用できるようにすることを目的に平成29年度から「市内出土遺物再整理事業」(以下、再整理事業)に取り組んでいる。

本事業で行っている取り組みの1つに「やきものワークショップ」がある。やきものワークショップは、武雄のやきものを知ってもらうこと、埋蔵文化財に親しんでもらうことを目的に、平成30年度から取り組んでいる。

講師は、再整理事業に協力する市内の窯元と市文化財係職員で行っている。ワークショップの構成は大きく2つに分かれており、①市職員が再整理資料を使い、武雄のやきものの歴史や技法について解説し、陶片等を子どもたちに触らせて体感させる。②窯元が再整理資料を基に技法を実演し、子どもたちに武雄系唐津の技法を使った器を作らせる。というものである。

令和2年度は、市内の4年生以上の小学生14名が、窯跡から出土した陶片に触れて、歴史や技法を学び、市の商工観光課が行った「米(マイ)ちゃん大作戦」でもらった茶碗と一緒に使える皿と湯呑みを作った。



かけ流しの技法を再整理資料で確認

まずは、陶片を武雄系唐津の技法ごとに分けて解説し、武雄のやきものの歴史について学ぶとともに、実際に陶片に触って、どのようにしてその技法が施されたのかを学んだ。

皿は手びねりて器を成形し、武雄系唐津の代表的な技法である白化粧を使い、器に装飾(刷毛目・櫛目・指なで)を行った。

湯呑みは、既製品の素焼きの湯呑みに釉薬(緑釉と褐釉)を流し掛け、作品を作った。

焼成については、時間がかかることから、陶芸サークルに協力してもらい、電気窯で焼成した後に、後日、参加者へ渡した。

単なるやきものづくりではなく、実際に陶片に触れて、窯元の話聞いたことにより、子ども達は歴史や伝統、埋蔵文化財の価値を感じ取ることが出来たようである。(樋渡 拓也)



白化粧の技法(刷毛目と櫛目)



刷毛目を体験



指なでを体験



かけ流しを体験

9)ふるさとの文化財展(鹿島市)

鹿島市生涯学習センター「エイブル」は、図書館・保健センターを併設した複合施設で、令和2年でちょうど開館20周年を迎えた。この複合施設エイブルの建物のほぼ中心に、幅5m×高さ2m×奥行0.7mのガラス張りの展示スペースがある。「床の間コーナー」と呼ばれるこの一画では、平成13年の開館以来、年に約4～6回の展示替えを行いながら、市内外に向けて鹿島の文化・芸術・歴史を紹介している。

令和2年4月～6月に開催した「ふるさとの文化財展」は、鹿島市に関係のある県・市指定の有形文化財を一堂に集め、展示を行なったものである。普段は地域の神社・仏閣において、あるいは



前期展示



経塚出土遺物

博物館の収蔵庫に大切に保管されている有形文化財資料を公開することで、日頃なじみの少ない貴重な文化財やふるさとの歴史に触れていただく機会とした。

展示は、前期(弥生時代～平安時代)と後期(鎌倉時代～江戸時代)の2期に分けて行なった。特に、「鹿島城赤門の棟札」(県指定)は初の一般公開であり、興教大師覚鑿の生誕地である誕生院ゆかりの「四天王五鈷鈴」(県指定)や、鹿島鍋島家伝来の「刀・大磨上 無銘 伝行光」(県指定)は、佐賀県立博物館の協力により市内初公開となった。加えて、令和2年4月に新たに県指定文化財となった「旭ヶ岡遺跡出土

の鉄戈」など、貴重な品々を展示した。

また、子ども達向けに浮立面や、狛犬、神像を「ぬり絵」にアレンジした用紙を配布し、出来上がった作品を館内に展示するなどして、文化財をより身近なものに感じていただくための取り組みも行った。

残念ながら、期間中に新型コロナウイルス感染症が拡大し、施設の臨時休館や三密を避ける対策を講じなくてはならなくなったため、予定していた2回のギャラリートークを、地元ケーブルテレビの協力を得て、収録放送という形に代替し対応した。

当市には、公立の歴史資料館や博物館が整備されていない現状ではあるものの、限られた場所や機会を活かしながら、引き続き、地域の文化財に触れる機会を設けていく予定である。(江島 賢一)



後期展示



石造狛犬

10)「おぎを掘るXIV～石からみる小城の歴史～」展(小城市)

小城市ではこれまでの発掘調査の成果を公開するために「おぎを掘る」と題し、発掘調査成果展を開催している。本展示で14回を数え、令和2年度は令和2年9月5(土)～10月18日(日)小城市立歴史資料館企画展示室にて行った。

小城市では古くから石器や石造物の石材となる石が産出する。そのような地理的な環境もあり、小城市内では多くの石の道具や優れた石造物が残されている。

昨年度の成果展ではそれら石材に焦点を当て、旧石器時代から江戸時代までの時代ごとの資料を展示した。展示資料とあわせてそれぞれ時代の文化や信仰といかに結びついたかを来館者の理解の助け

になるように解説パネルを作成し、地域の歴史の関心を持ってもらう機会とした。(本村 浩二)

11)日本遺産選定記念展示シュガーロード(嬉野市)

長崎街道は、砂糖や菓子作りの技法等も入手しやすく、全国的にも有名な銘菓や文化が華開いたため、別名シュガーロードとも呼ばれる。シュガーロードが日本遺産に選定された記念展示として、嬉野茶交流館チャオシルにて、シュガーロード日本遺産選定記念スイーツお披露目会に合わせ、開いた。

特別展では、日本遺産シュガーロードの構成資産の展示や古文書から分かった市内における砂糖の流通について

示し、考古、伝統工芸、民俗、建造物など幅広くシュガーロードを理解できる内容とした。また、地図パネルに長崎街道や沿線の文化財も示し、当時のシュガーロードを追体験できるよう努めた。また、長崎尾曲がり猫学会協力のもと、シュガーロード(長崎街道)から来たと言われる尻尾に特徴のある猫のパネル展示もしたため、子供にもシュガーロードを楽しく学んでもらえた。(輪内 遼)



おぎをほるXIV 展示状況



シュガーロード展

12)『天神縁起画伝』限定公開(基山町)

「天神さま」として信仰される菅原道真の生涯を描いた天神縁起。その限定公開を8月22日に開催した。参加人数は68名。

当「縁起」は、太宰府天満宮の社家が所蔵していたものが、明治の廃仏毀釈の際、仏像や仏具とともに基山へ難を逃れたものとされる。町内の集落において丁重に保管されていたが、平成28年に基山町へ寄贈された。掛幅装であったものが、昭和前半期に六曲一双の屏風に仕立て直されている。かつては年に一度、お盆の時期に集落の人々が集まり、虫干しも兼ねた「絵解き」が行われていた。

道真の波乱に満ちた生涯を豊かな色彩で描かれた縁起を、解説を交えながら見て頂いた。(坂井 貴志)



天神縁起展示の様子

13)「きやまの民俗芸能」展(基山町)

毎年秋に催行される、基山町を代表する民俗芸能「荒(あら)穂(ほ)神社の御(み)神幸(ゆき)祭(まつり)」「宝満神社の園部(そのべ)くんち」。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各芸能の奉納が中



天神縁起展示の様子

止となり、神事のみ執り行われることとなった。民俗芸能の保存と顕彰を図り、これからも受け継がれていくことを祈念し、2つの祭りを紹介する展示を町立図書館郷土資料コーナーにて実施した。(展示期間は令和2年9月1日～10月18日。)

展示はパネルを中心とし、大正～昭和初期のものから近年撮影のものまで、さまざまな写真を紹介した。また、実際に奉納芸能で使用する道具類などもお借りして展示を行った。(坂井 貴志)

(2) 開発事業と文化財保護の調整

令和2年度に文化財保護室が実施した埋蔵文化財の本発掘調査は、佐賀道路建設事業に伴う1件である。佐賀県においては、長崎自動車道や西九州自動車道等の高規格道路網と連携する自動車専用道路(佐賀唐津道路)の建設を計画・推進しているが、佐賀道路はその一部を構成するもので、有明海沿岸道路との接続箇所(佐賀ジャンクション[仮称])から北に約4.2kmの区間が該当する。同区間では、工事に伴う用地買収の進捗に伴い、試掘・確認調査を急ぎ進めることとなった。同調査では一部で遺構を確認し、本年度は佐賀市嘉瀬町に所在する「藤三郎遺跡」の本発掘調査を佐賀県が調査主体となり実施した。その結果、戦国時代から江戸時代前期にかけての低平地集落の一部を検出している。一方、西九州自動車道建設事業においては本発掘調査の実施は無かったが、試掘・確認調査及び事業進捗に伴う調整を継続して行っている。

広域の農業基盤整備事業については、前年度に佐賀中部農林事務所所管の佐賀市高木瀬地区ほ場整備事業に係る調整及び試掘・確認調査を実施した結果、一部で遺構が検出され、当該箇所を新たに周知するとともに、佐賀市が調査主体となり発掘調査を実施した(一本黒木遺跡)。また、本年度においても引き続き実施した確認調査で遺構を確認しており、次年度以降の発掘調査実施に向けて協議を進めている。

その他、開発に伴う発掘調査については、市町教育委員会が調査主体となり実施した。

また、県土整備部・地域交流部及び農林水産部の令和3年度所管事業について、各部事業所管課、各土木事務所、各農林事務所、関係する市町教育委員会の文化財保護担当部局が連携し、事前の調整会議を開催した。

同様に、国土交通省及び農林水産省の令和3年度所管事業についても、佐賀国道事務所、武雄河川事務所、筑後川河川事務所、筑後川下流右岸農地防災事務所、佐賀森林管理署の協力のもと、調整会議を開催して文化財保護と開発計画との調整を行った。

(3)文化財の調査(埋蔵文化財発掘調査)

令和2年度における開発に伴い提出された届出等の総数は1,369件である。その内訳及び詳細を表に示す。また、出土文化財の認定については、30件であった。

①開発事業別発掘届及び調査件数

区 分	法93・94 条の件数	法92・99 条の件数	計
道路	34	2	36
鉄道	0	0	0
空港	0	0	0
河川改修	34	0	34
港湾整備	62	0	62
ダム建設	3	0	3
学校	32	0	32
集合住宅	144	1	145
個人住宅	555	9	564
工場	19	1	20
店舗	9	0	9
その他建物	62	1	63
宅地造成	64	1	65
土地区画整理	10	0	0
公園造成	10	0	4
ゴルフ場造成	0	0	0
観光開発	0	0	0
ガス・電気・水道	110	0	113
農林業基盤整備	6	3	9
農業関係	93	0	93
土砂採取	0	0	0
その他開発	101	2	103
小 計	1,348	20	1,368
自然崩壊	1	0	1
保存目的	0	0	0
学術調査	0	0	0
遺跡整備	0	0	0
小 計	1	0	1
合 計	1,349	20	1,369

②文書別件数

区 分	件 数	
発見届	法96条	0
	法97条	0
	合 計	0
区 分		件数
発掘届	法92条	0
	法93条	1,055
	法94条	294
	法99条	20
	合 計	1,369

③埋蔵文化財包蔵地周知化の経緯

区 分	件数	
埋蔵文化財 包蔵地周知化	工事中	0
	開発予定地の現地踏査	0
	開発予定地内の試掘・確認調査	4
	その他	0
	合 計	4

④工事・調査の指示・勧告の内容別・主体別件数

区 分	件数			
工事に係る 届出等	指示勧告 の内容	現状保存	0	
		確認調査 (うち一部保存件数)	367	
		工事立会	0	
		慎重工事	173	
		その他	795	
法93・94条	調査の届出等	注 意	13	
		調 整 中	1	
		法92条	工 事	0
		学 術	0	
		法99条	工 事	20
学 術	0			
合 計		1,369		

⑤出土文化財の認定件数

出土文化財の認定件数	30
------------	----

⑥出土遺物の量(コンテナ換算)

令和元年度までの累計(箱)	203,380
令和2年度の増加分(箱)	257
合 計(箱)	203,637

下表は令和2年度に実施した主な本発掘調査の一覧で、各種開発事業に対し文化財保護担当部局が試掘・確認調査を実施した結果、記録保存が必要と判断したもののほか、史跡等重要遺跡の保存、整備を目的として実施した学術調査がある。それらのうち、22事例の概要を掲載する。

調査主体	番号	遺跡名称	調査区等	調査の原因	遺跡の内容
佐賀県	①	藤三郎屋敷遺跡 [佐賀市]	A・B・C・E 区	道路建設	戦国時代～江戸時代の集落跡・墓地跡
	②	特別史跡 名護屋城跡並陣跡 [唐津市]	弾正丸東下	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
	③	特別史跡 名護屋城跡並陣跡 [唐津市]	島津義弘陣跡	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
	④	特別史跡 名護屋城跡並陣跡 [唐津市]	水手水路	史跡内容確認	文禄・慶長の役の際に築かれた城跡
佐賀市	⑤	榎木遺跡	10区	個人住宅建設	弥生時代～近世の集落跡
	⑥	一本黒木遺跡	1区	県営圃場整備事業	弥生時代～平安時代の集落跡
	⑦	思案橋遺跡		広域整備事業	江戸時代～明治時代の石垣護岸、雁木
	⑧	七ヶ瀬遺跡	3区	産業用地造成事業	弥生時代の墓域
	⑨	小川遺跡	10区	共同住宅建設	平安時代の集落跡
	⑩	築山遺跡	6区	個人住宅建設	奈良時代～中世の集落跡
	⑪	長瀬遺跡	5区	分譲宅地造成	中世の集落跡
	⑫	琵琶原遺跡	7区	個人住宅建設	弥生時代、近世の集落跡
唐津市	⑬	宇木汲田遺跡		重要遺跡範囲確認調査	弥生時代の集落跡・墳墓
	⑭	唐津城跡	本丸	石垣再築整備事業	近世城館跡
	⑮	芳谷炭坑跡		河川改修	近代の生産遺跡
鳥栖市	⑯	四ツ木遺跡	6区	道路拡幅	縄文時代・弥生時代の集落跡
	⑰	勝尾城筑紫氏遺跡		重要遺跡確認調査	中世城館跡
武雄市	—	おつぼ山神籠石		史跡整備	古代山城
多久市	—	牟田辺遺跡		畜産公社拡張	弥生時代の墓地
嬉野市	⑱	関東遺跡		市農業用団地建設	古墳時代・中世の集落跡 近世長崎街道
	—	千堂遺跡		道路建設	奈良時代の集落跡
みやき町	—	原古賀六本黒木遺跡		宅地造成	古代の集落跡
	—	板部城跡		個人住宅建設	中世の城館跡
基山町	⑲	古寺遺跡	第7次	宅地造成	古墳時代の集落跡
	—	夜水遺跡		個人住宅建設	弥生時代の集落跡
上峰町	⑳	檜寺遺跡	13区	分譲宅地造成	飛鳥時代～平安時代の集落跡
	㉑	西前牟田遺跡		宅地造成	弥生時代の集落跡
	㉒	西峰遺跡		宅地造成	弥生～古墳時代の集落跡

① 藤三郎屋敷遺跡(A・B・C・E区)

【所在地】佐賀市嘉瀬町大字中原字松本屋敷籠

【遺跡の時代と種類】戦国時代～江戸時代の集落跡・墓地跡

【事業の原因】佐賀道路(国道208号)建設 【調査面積】3,747m²

【調査主体】佐賀県文化財保護室 【調査期間】 令和2年7月13日～11月30日

【調査の概要】

藤三郎屋敷遺跡は佐賀市の南西、西に嘉瀬川、東を本庄江に挟まれた沖積層上に立地する。現況は標高2.4～2.5mの水田部で、西側の中原集落一帯は溝渠(クリーク)に集落が囲まれた佐賀平野特有の低平地集落の景観を残す。集落内には「大木(城)戸」・「蒲原小路」のしこ名が有り、戦国時代は龍造寺氏、江戸期には鍋島氏の家臣となった在地領主、蒲原氏の居館「嘉瀬中原城」の可能性が指摘されている。

藤三郎屋敷遺跡A～E区では、幅10mを測る堀とも呼ぶべき大溝(SD01・30・70)を含む大小の溝跡、土坑、小穴など集落に係る遺構のほか、墓地を構成する計27基の墓坑が発見された。集落は中世後期の戦国時代(15世紀後半)から近世前期の江戸時代前半(17世紀)にかけて存続したもので、墓地は江戸時代前半の17世紀の造営である。溝跡は調査区内全域を東西及び南北に直線的に走り、集落や耕作地などの生活域を取り囲む区画溝と推測され、特に大溝であるSD01・30・70溝跡は、直角に連結して平面的にはコの字形をなしている。この溝に囲まれた島状地の規模は南北63m、東西方向は調査区内で16mとなるが、調査区外東側にさらに広く展開するものと推測される。本遺跡はこのような大小の溝で区画された、複数の島状空間地で構成される、佐賀平野低平地で特徴的な中近世の「環濠集落」の一部と考えられる。

SD01・30・70溝埋土からは15世紀後半から16世紀代の遺物を中心に出土したが、上層あるいは掘り直されたと推測される溝底からは17世紀末から18世紀初頭までの遺物が含まれており、戦国時代に掘削され、その後江戸時代前半まで存続・埋没したものと推測される。溝からは皿・杯、鍋、羽釜など在地の土器の他、輸入陶磁器・国産陶磁器がみられ、中国龍泉窯系の青磁碗、福建産の白磁皿、景德鎮窯を中心とした青花碗・皿、朝鮮系陶器皿などが出土しており、15世紀後半から16世紀代に位置付けられるものである。また国産陶磁器では古唐津の碗・皿、瀬戸・美濃焼系の天目碗、備前焼甕などがみられる。

近世の墓地はSD01溝とSD30溝により構成される島状地の北西隅に位置する。その種類は箱式木



A区SD01溝跡(右)と墓地(左)(北から)



A区SK60桶棺墓の棺台(下が北)

棺墓、桶棺墓、甕棺墓、土坑墓などがあり、特殊なものとして板材を平面六角形に配置したものがある。副葬品には、磁器皿、土師器皿、漆椀、折敷、櫛、位牌などがあり、特にSK28木棺墓は、枕元に漆椀2点と初期伊万里染付皿を重ね、足元にも漆椀を置くなど厚葬なもので、被葬者の中でも中心的な人物の墓と想像される。特筆されるものとして棺台を伴う墓が2基みられ、棺の下部に三尺四方の板材を台として置くものがみられた。このうちSK60桶棺墓では棺台上に位牌(寛文八年(1668年)銘)、折敷、上製の土師器皿、漆椀が置かれ、さらに西壁に鳥居形の木製品を立てるなど、埋葬時の儀式に係る遺構と想像される。

発見された直線的かつ大規模な堀跡、輸入陶磁器をはじめとする出土遺物の様相、厚葬の墓地の存在から、一般的な集落ではなく武家あるいは有力農民層の屋敷地の可能性が考えられる。(市川 浩文)

② 名護屋城跡弾正丸東下(特別史跡 名護屋城跡並陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町名護屋 【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(1592～1598)の際の城郭跡

【調査の原因】史跡内容確認 【調査面積】120m² 【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館

【調査期間】令和2年4月1日～令和3年3月31日

【調査概要】

名護屋城跡弾正丸東下の発掘調査は、特別史跡「名護屋城跡並陣跡」の保存整備計画に基づき、将来的な保存・整備事業に備えて基本資料を得る目的で発掘調査を実施した。

調査は、弾正丸東下の石採場周辺と弾正丸下の帯曲輪状の平坦面で行った。

その結果、石採場南西側で、岩盤の上に小礫が高密度に敷き詰められた状況を確認し、採石の作業場や石の搬出に伴う路面整地の可能性が想定できた。また、備前産の播鉢の破片1点が出土した。

帯曲輪状の平坦面では、搦手口西側で、石垣の根石及び搦手通路の延長線上に並ぶ石列と玉石を含む瓦溜まりを検出した。鎬積みの隅角部下では、石垣の根石と礫層を検出した。南東隅角部では、岩盤上に根石を据えて石垣が築かれた状況を確認した。また、いずれの調査区においても当該期の整地層や岩盤などは検出されたが、玉石敷きは確認できなかった。

当該期における弾正丸下の帯曲輪状平坦面や石採場周辺の空間状況を想定するうえで重要な情報が得られた。(唐 尚暉)



弾正丸東下(石採り場南西側)発掘調査状況



弾正丸南東隅角部石垣発掘調査状況

③ 島津義弘陣跡(特別史跡 名護屋城跡並陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町波戸 【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(1592～1598)の際の城郭跡

【調査の原因】史跡内容確認 【調査面積】240m² 【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館

【調査期間】令和2年4月1日～令和3年3月31日

【調査概要】

島津義弘陣跡は、名護屋城跡から約2.5km北西に位置する標高20.9mの丘陵上に比定されている。陣跡の中心部には、最も規模が大きい50m四方の主郭が配され、その東西には小規模な曲輪群が展開している。

令和2年度は、令和元年度から調査を継続している主郭部と主郭西側小曲輪群に加え、新たに主郭部南東隅周辺において発掘調査を実施した。

調査の結果、主郭部中心部では、江戸期と考えられる造成土層の下から親指大の玉石が密に敷き詰められている状況を確認した。またその直上から土師器坏が1点出土した。主郭西側小曲輪群では、後世に大きく削平を受けており、明確な遺構は確認できなかった。主郭部南東隅周辺では、今までの調査で石塁の張り出しや、主郭部南東隅角部の根石を確認していたことから櫓台の存在を想定していた。調査の結果、櫓台となる根石は確認できなかったが、主郭部南面石垣と推定される石列を確認した。

当該期の島津義弘陣の状況を想定するうえで重要な情報が得られた。(唐 尚暉)



主郭部中心部付近発掘調査状況



主郭部南面石垣発掘調査

④ 名護屋城跡水手通路(特別史跡 名護屋城跡並陣跡)

【所在地】唐津市鎮西町名護屋【遺跡の時代と種類】文禄・慶長の役(1592～1598)の際の城郭跡

【調査の原因】史跡内容確認 【調査面積】200m² 【調査主体】佐賀県立名護屋城博物館

【調査期間】令和2年4月1日～令和3年3月31日

【調査の概要】

名護屋城跡北側に位置する水手通路では、将来的な修景整備に向けた発掘調査を実施している。発掘調査は平成25年度から継続的に行い、令和2年度は現況水手通路脇(西側)の平坦部(標高約57m)に調査区を設定した。

調査の結果、水手曲輪石垣の延長線上からは水手通路の遺構と考えられる法面を検出している。法

面は一部削平され、通路に使用されたと想定される石材や玉石が崩落した状態で出土した。

当該期の水手通路の形状・構成等を想定するうえで重要な情報が得られた。(大橋 正浩)



水手通路(調査区全景)調査状況



水手通路(通路西側法面)調査状況

⑤ 榎木遺跡(10区)

【所在地】佐賀県佐賀市大和町大字東山田字榎 【遺跡の時代と種類】弥生時代～近世、集落跡

【調査の原因】個人住宅建設 【調査主体】佐賀市教育委員会 【調査面積】139.12m²



調査区東半部(東から)

【調査期間】令和2年8月24日～9月28日

【調査概要】

大和町の中央部、川上小学校の東約150mの標高11mほどの段丘上に位置する。周辺の遺跡としては北側約50mに古代官道と推定される里道が東西に走り、川上小学校の改築に伴う発掘調査では、弥生時代後期～古墳時代初頭の竪穴建物跡や集落をとりまく環濠が確認されている。

今回の調査では現地表面下0.7mの黄褐色土層上で、小穴、土坑、弥生時代後期の竪穴建物跡、

奈良時代と江戸時代の掘立柱建物跡等が検出されている。

竪穴建物は川上小学校で発掘調査された集落跡と同時期のものであり、集落の広がりを検討するうえで貴重な資料となった。(谷澤 仁)

⑥ 一本黒木遺跡(1区)

【所在地】佐賀県佐賀市高木瀬町大字長瀬 【遺跡の時代と種類】弥生～平安時代の集落遺跡

【事業の原因】県営圃場整備事業 【調査面積】360m² 【調査主体】佐賀市教育委員会

【調査期間】令和2年10月21日～令和3年3月15日

【調査概要】

当地一帯は周知の埋蔵文化財包蔵地外であったが、平成元年度に実施された確認調査で発見され、

一本黒木遺跡として約1,100m²が新周知化された。このうち、支線排水路3号の建設によって影響が避けられない360m²について、本発掘調査を実施した。現況表土下0.4～0.5mで灰褐色粘性混砂土の基盤面を確認し、遺構多数を確認した。遺構は調査区のほぼ全面に広がっており、その内容は、古墳時代前期の遺構が大部分で、土坑、溝、井戸、掘立柱建物・小穴等を検出した。その他、弥生時代および古代の遺構(井戸等)を検出した。古墳時代の遺構からは、土師器、木製品・石製品など、古代の井戸からは黒色土器碗や土師器坏などの遺存状態が良好な遺物が多数出土した。

当地の南西部には東高木遺跡が位置し、古墳時代の集落跡が確認されている。当地は東高木遺跡からやや離れた位置にあり、遺跡の希薄な地区と考えられていたが、今回の調査によって当地周辺の状況について、新たな知見が得られた。

(三代 俊幸)



SD1016溝 遺物出土状況

⑦ 思案橋遺跡

【所在地】佐賀県佐賀市柳町 【遺跡の時代と種類】江戸時代～明治時代、石垣護岸、雁木

【調査の原因】広場整備事業 【調査主体】佐賀市教育委員会 【調査面積】30m²

【調査期間】令和2年5月25日～6月9日

【調査概要】

佐賀城の北東約500m、佐賀城下を東西に延びる長崎街道と紺屋川が交差する地点に架かる思案橋のたもとの標高約4m付近に位置する。

平成31年2月に家屋の解体中に遺構が発見され、その後の調査で江戸時代から明治時代に築かれた石垣護岸、雁木、建物の礎石が検出された。

その中でも雁木は、棚路のような水路の水洗い場の事例とは構造・規模とも相当に異なることから「船着き場・荷揚げ場」と考えられるもので、江戸時代から続く荷揚げ場の発見は佐賀城下では初めての事例として、構築技術や護岸の変遷による土地利用の変化、往時の景色の移り変わりをたどることができる貴重な資料になっている。

今年度の調査は石垣護岸等の整備に伴う追加確認調査で、護岸の基底部まで埋土を掘削し、石垣護岸の状況等を確認した。

調査の結果、石垣は6～7段積み、基底部から2mの高さを持つこと、基底部の石に赤石が多くみられ、胴木が敷かれていること等が判明した。

また、護岸基底部前面には1m程の幅で東西に杭が打たれ、その間を板材埋めている状況が確認されたが、用途は不明である。(谷澤 仁)



石垣護岸及び板材検出状況(南から)

⑧ セケ瀬遺跡(3区)

【所在地】佐賀市大和町大字川上 【遺跡の時代と種類】弥生時代の墓域

【調査の原因】産業用地造成事業 【調査面積】3,000㎡ 【調査主体】佐賀市教育委員会

【調査期間】令和2年8月3日～令和3年3月12日

【調査概要】

佐賀市大和町北部の標高12.3m前後の脊振山系南麓から伸びた段丘の縁辺部に位置する。セケ瀬遺跡は、これまでに昭和55年度(1区)及び令和元年度(2区)に発掘調査を実施しており、弥生時代後期を主体とした墓域(甕棺墓70基、石棺墓5基、土壙(木棺)墓34基、祭祀土坑等)が確認されている。



セケ瀬遺跡3区全景(左が北)



SP3214木棺墓 鉄刀及び鏡出土状況

令和2年度(3区)は、1, 2区の北西側に隣接した3,000㎡の調査を行った。

3区では、現地表から0.5～0.7m下で遺構を確認した。検出した遺構は、甕棺墓87基、石棺墓18基、土壙(木棺)墓105基、土坑、小穴で、概ね弥生時代後期の所産である。これらの遺構群は、道状の空白地帯(墓道)を軸として、幅約25m、長さ61m以上に亘って帯状に墓域が展開する。墓域の縁辺には同時代の祭祀土坑群が広がる。壺、高坏を主体とした祭祀土器の他に袋状鉄斧、鑄造鉄斧、鉄鏃、土製勾玉、土製小玉などが出土しており、これらの土坑群は死者を弔う性格を持つものと推察される。

今回、副葬品を伴った墓を11基確認した。成人棺9基、小児棺2基で埋葬形態は、甕棺墓、石棺墓、木棺墓である。副葬品は鉄器類(素環頭大刀、短剣、鉄鏃、鉞)、装身具(ガラス・石製の勾玉、管玉、小玉、青銅製円環型銅釧)だけでなく、うち4基からは、舶載青銅鏡(前漢～後漢代)が割られた状態でそれぞれ1面ずつ出土した。副葬品を持つ11基のうち7基については、

墓域の一部に同主軸かつ密集して埋葬されていることから、集団墓内においても有力者の存在をうかがうことができる。

これまでの研究では、北部九州一体で捉えた場合、弥生時代後期前半は首長墓の造営が減少する傾向にあり、佐賀県内においては、唐津(桜馬場遺跡周辺)や神埼地域(吉野ヶ里遺跡周辺)に厚葬墓が集中していることは知られていたが、佐賀平野から西部域にかけては、その存在が明らかでなかった。今回の発掘調査により当該地域の有力者が確認されたことは、佐賀地方の首長の動向を知る上で非常に大きな成果であり、弥生時代後期前半としては北部九州全体でみても突出した首長墓群の一つと位

置付けられる。(馬場 晶平)

⑨ 小川遺跡(10区)

【所在地】佐賀市大和町大字久池井 【遺跡の時代と種類】平安時代の集落跡

【調査の原因】共同住宅建設工事 【調査面積】139m² 【調査主体】佐賀市教育委員会

【調査期間】令和2年5月25日～6月8日

【調査の概要】

調査対象地周辺ではこれまでの調査で、弥生～江戸時代までの幅広い時代の遺構が確認され、その中でも平安～鎌倉時代の遺構が多く発見されている地域である。

今回の調査では、現地表面下1.2mの深さで、溝・小穴・土坑を検出した。溝や土坑からは平安時代の須恵器や土師器などが出土した。

調査区の東半部は、奈良時代以前は地形が落ち込んでおり、砂質土と粘質土が交互に堆積しながら埋没したと考えられる。平安時代になると川の流が安定したため溝や土坑が造られたと考えられる。しかし平安時代以降も再び川の氾濫を受けていたためか、西半部に比べ東半部では遺構の残存状況はよくな



調査区全景(南から)

かった。今回の調査は、調査区周辺の地理的環境を考える上で大変貴重な資料となった。(山口 亨)

⑩ 築山遺跡(6区)

【所在地】佐賀県佐賀市大和町大字尼寺字築山 【遺跡の時代と種類】奈良時代～中世後半代、集落跡

【調査の原因】個人住宅建設 【調査主体】佐賀市教育委員会 【調査面積】120m²

【調査期間】令和2年7月20日～8月3日

【調査概要】

大和町尼寺にある春日小学校の東約200m、標高約8mの段丘上に位置する。

周辺部は北西約100mに築山前方後円墳あり、南約30mには古代官道跡が東西に走り、国分寺・国分尼寺にも近いことから奈良～中世の遺跡が集中する地帯である。

開発区は後世に削平を受けており、遺構の残存状況は良くなかったが、現地表面下約0.6mの黄褐色土層上で奈良時代～中世後半代の小穴、土坑、井戸跡などを検出した。

(谷澤 仁)



調査区全景(東から)

⑪ 長瀬遺跡(5区)

【所在地】佐賀県佐賀市高木瀬町大字長瀬字黒木 【遺跡の時代と種類】中世、集落跡

【調査の原因】分譲宅地造成工事 【調査面積】24m²

【調査主体】佐賀市教育委員会 【調査期間】令和3年2月25日～3月12日



溝掘削状況(南から)

【調査概要】

佐賀市中央部付近で、標高約6mの多布施川左岸氾濫原上に位置する。周辺部では東約100mで実施した確認調査で、中世から近世にかけての集落跡が確認されているが、それ以外では遺跡は見つかっていない。

今回の発掘調査地は、現地表面下0.8mの黄灰色シルト層上で中世の溝、小穴、土坑等を確認しているが、開発区の外周に設置する擁壁部分の掘

削工事に伴う発掘調査で、極めて小規模な調査であるため、遺跡の性格は不明である。

しかし、当該地は、事前の確認調査で西から南側にかけて広がる谷部の縁辺地付近と想定され、本調査区の北側に入れたトレンチでは谷部との境付近で中世の瓦器椀や土師器とともに窯道具と思われる支脚も出土しており、当遺跡の性格を考える上で興味深い発見となっている。(谷澤 仁)

⑫ 琵琶原遺跡(7区)

【所在地】佐賀県佐賀市久保泉町大字川久保字琵琶原 【遺跡の時代と種類】弥生時代、近世、集落跡

【調査の原因】個人住宅建設 【調査面積】56.02m²

【調査主体】佐賀市教育委員会 【調査期間】令和2年10月14日～10月21日

【調査概要】

佐賀市北部域の背振山地南麓から南に延びる標高約16mの舌状台地の先端部付近に位置する。周



調査区東半部(東から)

辺では北東約200mに、弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物群や、奈良時代の大型倉庫を含む掘立柱建物群を確認した琵琶原遺跡6区がある。

現地表面下約0.4mの深さの明黄褐色土層上で、弥生時代後期の竪穴建物や、弥生時代後期と近世の小穴、土坑等を確認した。

今回の調査はトレンチ状の掘削で、狭小な面積の調査であったが、弥生時代後期の集落の広がりや構造を確認するうえで重要な資料となった。(谷澤 仁)

⑬ 宇木汲田遺跡

【所在地】唐津市宇木 【遺跡の年代と種類】弥生時代の集落跡・墳墓

【調査の原因】重要遺跡範囲確認調査 【調査主体】唐津市教育委員会 【調査面積】20m²

【調査機関】令和3年2月～令和3年3月

【調査概要】

宇木汲田遺跡は、松浦川東岸に位置する夕日山山系から東側に派生する丘陵端部から低地にかけて立地する。昭和5年の農地整備の際に偶然青銅器が発見されて以来、数次にわたり学術調査が行われてきた。

唐津市教育委員会では、平成26年度から瀬戸口支石墓群の麓の調査を継続しており、主に集落域の広がりについて知見を深めてきた。今回の調査では、令和元年度の調査において小児用甕棺墓が確認されたことから、その広がりの有無を確認することを主眼に実施した。調査の結果、令和元年度に確認された甕棺の東側約5mの地点で、同じく上半部が削平された小児甕棺墓を検出した。かろうじて上カメの口縁部が残存していたことから、弥生時代中期前半の甕棺墓であることが確認できた。

また、かつて直近に存在した弥生時代中期の遺物包含層が、現代の造成によりある程度まとまった形で移動したと思われる、集落内の包含層を想起させる遺物群を含む造成土も確認した。

近接する2基の小児甕棺墓の存在も考え合わせると、当地が宇木汲田遺跡の集落域である可能性がさらに深まったと思われる。

(草場 誠司)



棺内完掘状況

⑭ 唐津城跡(本丸)

【所在地】唐津市東城内 【遺跡の時代と種類】近世の城館跡 【調査の原因】石垣再築整備事業

【調査面積】682m²(上段広場整備に伴う調査区：608m²・本丸東側石垣解体調査区：74m²)

【調査主体】唐津市教育委員会 【調査期間】令和2年9月15日～12月28日

【調査の概要】

唐津城跡は、松浦川の河口西側に位置する満島山(標高42m)を本丸とし、本丸南西部に広がる砂丘上に二ノ丸・三ノ丸を連ねて配置している。唐津市では、築城後400年が経過し、はらみ・ゆるみを生じた唐津城跡本丸の石垣に対して、平成20年度から「石垣再築整備事業」を立ち上げ、石垣修理に伴う発掘調査を実施しており、令和2年度は13年目にあたる。

令和2年度の発掘調査は、大きく二つに分かれる。一つ目は、石垣再築整備事業の付帯工事とし



園路部分調査状況(南東から)



園路部分調査状況(北から)



15面上段・16面石垣解体状況(北東から)



石積み・旧石垣検出状況(南から)

て、現在上段広場とも呼ばれる本丸最上部に整備された園路下に、暗渠排水管を設置するため、工事と並行して実施した調査である。二つ目は、平成31年度末に先行して天端面の発掘調査を実施していた、本丸東側に位置する15面上段・16面石垣の解体工事に並行して実施したものである。

このうち、暗渠排水管設置に伴う調査は、暗渠を設置する地表下約0.3mまで掘削を行うものであった。今回の調査区西側は、平成21年度に給排水管・電線管等埋設工事に伴う確認調査を実施した場所と一部重複する。この確認調査では、地表下0.3mで江戸期の遺構面を確認していたため、今回もこの遺構面の広がり・残存状況や、地山(岩脈)面との関係を精査することを主眼として調査を実施した。その結果としては、元々標高が高く、地山面までの距離が近かったと思われる本丸中央西側周辺は、近代以降の公園造成によって岩脈が露出するほど削平が行われていることを改めて確認したほか、その他の地点については、江戸期の包含層の残存を部分的に確認できたものの、明確な江戸期の遺構は確認できなかった。

15面上段石垣・16面石垣の解体に伴う調査では、15面上段石垣北部を17段、16面石垣を9段に分け、段毎の石垣解体にあわせて、遺構の有無・栗石の変化を精査しつつ、裏の盛土を人力にて掘り下げた。また、石垣解体の掘削範囲内に以前の発掘調査時に検出していた、南北約10m×東西5.5mで5間×3間程と推測される櫓台石垣の石材が含まれていたため、こちらの石材も解体を行った。

15面上段石垣は、南北約35mにわたる石垣であり、石垣整備事業の工程上中央部を平成20年度、南部を平成28年度に解体している。今回解体した北部の調査成果を加味すると、江戸期の間に少なくとも4・5回の積み替えが行われており、15面上段と16面の隅角部付近はより多くの積み替えがわれたようである。さらに近現代以降の崩落などを加味すると当該石垣に対する修復回数は、さらに増えるものと推測される。

また、今回の調査範囲は、櫓台の範囲が大部分を占めていたこともあり、控え柱痕跡などの他の遺構は確認できなかった。一方で、石垣を中ほどまで解体した標高39mと38m付近からは、16面石垣とほぼ平行する石積み遺構を2つ検出した。このうち、南側に位置する石積み遺構は、南側に面を持

つが、勾配は77～83度と一定していないばかりか、背面に栗石層を持たず、前面・背面の盛土にも差異が見られない性格不明のもの(以下：盛土内石積み)である。

もう一つは、盛土内石積みより北側の隅角部に近い場所に位置する。南側に面を持ち、勾配は59.5度を図る。背面には栗石を伴っており、こちらは埋没した旧石垣と考えられる。

この旧石垣の検出によって、現状とは異なる古段階の曲輪形状を考察する材料が得られた。また、

15面上段石垣の背面盛土からの出土遺物は、明確に積み替えが行われた部分を除けば、江戸時代初期を下限としているため、江戸時代初期に古段階の15面上段・下段石垣の大部分が崩落していた可能性が明らかになった。今回の調査範囲の石垣下部や、平成20年度に解体調査を実施した15面下段石垣の栗石中には、谷部に落ち込むように取り残されたφ0.3～0.5m程の石材が検出されており、今回の調査成果とも連動して、大崩落が起こったことを裏付ける。

先の盛土内石積みは、江戸初期の大崩落後に施工された盛土層内に築かれているため、崩落後の復旧に伴う土留めなどを目的としたものである可能性もあるが、確証はない。

今回の調査から得られた情報は、築城期から現在に至るまでの本丸東側の様相を考える上で重要な資料と言える。今後、15面上段・下段石垣の修復歴の検証と合わせて、石垣背面から検出した埋没石垣・石積み遺構についても、精査を継続していく予定である。(立谷 聡明)

⑤ 芳谷炭坑跡

【所在地】唐津市北波多岸山 【遺跡の時代と種類】近代・生産遺跡 【事業の原因】河川改修

【調査主体】唐津市教育委員会 【調査面積】95m² 【調査期間】令和2年9月18日～令和3年3月12日

【調査概要】

芳谷炭坑跡は唐津市西南部、徳須恵川支流の岸山川付近の炭坑跡である。炭坑の発見は古く、近世の享保年間にさかのぼるとされる。唐津市域を中心とした唐津炭田は幕末以降大きく発展しており、国内の生産高の多くを占めるまでになった。その中で芳谷炭坑は県内では機械化を最も早くから進め、明治後半には県内最大の産出量を誇る炭坑となった。

発掘調査はレンガ積みの河川トンネルについて行った。直近には芳谷炭坑第三坑口が造られており、河川トンネルも坑口周辺の造成に伴い、小河川を暗渠化するために造られたものと思われる。河川トンネルは現状では20m程離れて上流側と下流側二箇所確認しているが、以前はつながっていた可能性がある。今回は上流側の調査を行った。トンネルは痛みが進んでおり、河床と側壁下



盛土内石積み検出状況(南東から)



芳谷炭坑跡(岸山川河川トンネル近景)

半はコンクリートで覆われた部分が多い。調査は実測が中心であり、大型の立体構造物であることから3次元計測を行った。トンネルの掘り込みや断面の確認は工事の進捗に合わせて翌年度に行っている。

今回の近代遺跡の発掘調査は市内でも初めてであり、県内でもレンガ構造物の発掘調査はほとんど行われていないため、近代のレンガ構造物の構造を知ることができる貴重な調査例となった。

(美浦 雄二)

⑩ 四ツ木遺跡(6区)

【所在地】曾根崎町1347-1,1348-1 【遺跡の時代と種類】縄文・弥生、集落跡

【事業の原因】道路拡幅工事 【調査面積】140m² 【調査主体】鳥栖市教育委員会

【調査の期間】令和2年5月11日～7月30日

【調査の概要】

本遺跡は、鳥栖市の中心部より東、大木川左岸の中位段丘上に位置する。本調査対象地区は、四ツ木遺跡の東端部に位置し標高約13mである。調査以前は宅地として土地利用されていた。

本遺跡の調査は、平成6年の1次調査(1区)以降、平成7年、平成11年、平成15年、平成18年と実施されており、本調査は6次調査(6区)となる。過去の調査から弥生時代、古代～中近世の集落遺構が確認されている。

調査の結果、弥生時代の溝1条、土坑1基、小穴6基を検出した。遺物は弥生土器を中心に縄文時代晩期の土器数点の他、磨製石鏃1点、多くの黒曜石剥片など36リットルコンテナ3箱分出土した。

(内野 武史)



四ツ木遺跡調査区遠景



四ツ木遺跡調査区全景

⑪ 勝尾城筑紫氏遺跡

【所在地】鳥栖市山浦町 【遺跡の時代と種類】中世・城館

【事業の原因】重要遺跡確認調査 【調査主体】鳥栖市教育委員会 【調査面積】140m²

【調査期間】令和2年10月8日～12月28日

【調査の概要】

本遺跡は、鳥栖市の北西部に所在する城山(標高498m)を中心に複数の支城群と関連施設群で構成されている。今年度は、勝尾城の支城(出城)の一つである葛籠城(主郭標高126m)の調査を行った。

葛籠城地区の調査は平成8年度、16年度、26年度、27年度の4回実施している。27年度調査では空堀に掛かる土橋を検出している。今回の調査地はこの土橋の北側を中心に行った。

【確認された主な遺構】

石敷き 土塁北側の平坦地にて平成27年度に確認された石積遺構の続きが検出された。前回の調査成果と合わせると、東西方向に約3m、南北方向に約1mの礫敷きが3列並ぶものと推察される。遺物は出土せず、戦国期に伴うものなのか不明である。

柱穴列 土塁ライン上の平坦地にて柱穴3基が確認された。直径0.3m程度の円形を呈しており、3基の軸線は空堀に並列する。3基の内2基から柱痕が確認され、柱間は1.0mである。平成27年度調査においても土塁上にて柱穴や礎石列が確認されおり、空堀に並走する土塁上に柵列の存在が窺える。

今回の調査では、平成27年度に確認された土橋に続く進入路を確認することはできなかったが、谷奥にそびえる土塁、土塁上の柵列など葛籠城の防御構造の一端を確認することができた。今後の調査でさらなる葛籠城の構造解明に努めたい。
(内野 武史)



葛籠城石敷き遠景



葛籠城土塁上柱穴列

⑱ 関東遺跡

【所在地】嬉野市塩田町宮ノ元

【遺跡の時代と種類】弥生終末～古墳時代前期の集落跡、中世の集落？・近世の長崎街道

【調査の原因】市農業用団地(スマートアグリ宮の元)建設 【調査面積】51,074m²、トレンチ53本

【調査主体】嬉野市教育委員会 【調査期間】令和2(2020)年12月25日～令和3(2021)年3月31日

【調査概要】

関東遺跡は、塩田川による河岸段丘にあり、遺跡の南北に塩田石(変質安山岩)が獲れる山に挟まれ、南の塩田町最高峰の唐泉山山頂には1828年のシーボルト台風後に育ったとされるシイが原生する(県指定天然記念物)。蓮池藩領の当遺跡は、武雄領から塩田宿(東約2kmの現、嬉野市塩田津伝建地区)を経て長崎に向かう長崎街道塩田通が通っていた。

調査は、江戸後期(嘉永3(1850)年?)古地図で想定した箇所にトレンチを入れ、西からTr-



トレンチ配置図(古地図を任意で合成)



関東トレンチ0



関東トレンチ13

21、Tr-19、Tr-15、Tr-14、Tr-13、Tr-52、Tr-0の7箇所で長崎街道が出た。発掘した街道は、古地図同様、調査区西南西から東北東の斜めにやや蛇行して横断し、硬化面と側溝で構成されていた。Tr-14以外全てに硬化面A(小石混じり)が検出され、Tr-13では硬化面A直下が地山である。Tr-0のみ硬化面B(混じりなし)があり、その直下が硬化面Aである。硬化面Aから18世紀後半～19世紀前半(Tr-21・13)の陶磁器が、硬化面Bから17～18cの時期幅がある陶器片が出たため、硬化面A・Bはほぼ同時期と判断され、今回発掘したのは江戸後期の長崎街道である。江戸前中期の

街道は、削平済み(洪水が原因であれば発掘した街道建設のきっかけすらある)か、経路が変更された可能性がある。硬化面AB直上に硬化面Cがあるが遺物が無く時期不明で、その直上に圃場整備の造成土が被るため、近代以降が主体の生活道と判断される。街道はTr-19(H=10.71m)が最高地点となり、Tr-19からTr-0(H=9.76m)に向かい下る緩やかな坂だった。この坂は、調査区北から東に流れていた旧河川の浸食と思われる。道幅

は最小2m(Tr-19)～最大4.5m(Tr-52)だが、平均3.305mとなり当時の2間(約3.636m)に近い。また道断面は半楕円形だが、武雄領の明和8(1771)年掟に排水処理強化のため「かまぼこ形二高メ」とあり、排水との関連が伺える。

調査区Bは、弥生終末～古墳前期の大量の土器や肥前型器台片、竪穴建物も出た。式内社の「丹生神」社も近いが古代官道は未発見である。調査区Aから輸入陶磁器小片も少数出た。

3月24日(水) 17時からの現地説明会は、市長以下地元住民含む24名が参加した。長崎街道が核となる塩田津伝建地区や日本遺産シュガーロード、地元住民の関心の高さ等から、調査区全ての盛土保存が決定した。(輪内 遼)

⑭ 古寺遺跡7次調査

【所在地】三養基郡基山町大字小倉字高下 【遺跡の時代と種類】古墳時代・集落跡

【事業の原因】宅地造成 【調査面積】1,000m² 【調査主体】基山町教育委員会

【調査期間】令和3年4月15日～7月2日

【調査概要】

古寺遺跡は基山町の南東部、高原川と秋光川に挟まれた低位段丘上(標高約27m)位置する。これまで6次にわたる調査が実施されており、弥生時代中期後半から後期初頭にかけての集落跡が確認されている。南側に隣接する野入遺跡と一体となって大集落を構成していたと考えられ、その規模は有に100,000m²を越える。

今回の調査は、宅地造成工事に伴い遺跡に影響があると考えられる部分について調査を実施した。耕作地であったため若干ながら削平を受けており、遺構の残りはあまり良いとは言えない。

検出された遺構には、溝、廃棄土坑、方形状遺構、土坑、小穴がある。溝は調査区北部を北西－南東方向に伸びている。遺物は埋土中より多量に出土したが、破断面は摩滅し、時期も弥生時代中期後半～古墳時代と幅がある。方形状遺構は、上面を大きく削平されるが形状から察するに住居跡と考えられる。廃棄土坑の平面プランは隅丸方形を呈し、深さは約60cmを測る。埋土には炭化物や焼土塊が多く含まれており、上層を中心に完形に近い土師器椀が6点出土、埋没過程のある段階において廃棄穴として利用、投棄されたものであろう。椀形態より12世紀代の所産と考えられる。

当地が所在する「大字小倉」一帯は、太宰府天満宮の神宮寺である安楽寺の所領、小倉荘が所在しており、荘域ははっきりとしないが、位置は現在のJR基山駅南東部あたりと想定されている。

直接、荘園等に関連した遺構は確認できなかったが、現在実施している整理作業を通して、遺跡の性格をより明らかにしていきたい。(坂井 貴志)

⑳ 檜寺遺跡13区

【所在地】三養基郡上峰町大字坊所字檜寺

【遺跡の時代と種類】飛鳥時代～平安時代初期の集落跡 【事業の原因】分譲宅地造成工事

【調査面積】300m² 【調査主体】上峰町教育委員会 【調査期間】令和2年11月18日～令和3年1月22日

【調査概要】

檜寺遺跡は、上峰町大字坊所字檜寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ。

集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約9～11m付近に位置している。今回の調査対象区域は、目達原丘陵の中東部、標高10m付近に位置しており、これまで宅地や水田として利用されていた。

調査の結果、7世紀末から9世紀初頭にかけての竪穴建物跡20軒、土坑12基、ピット群等を検出した。調査区内の遺構密度は高く、竪穴建物跡同士が複雑に切り合っている。竪穴建物跡は、平面方形プランのものが多い。建物の規模については、SH1307のような建物面積25m²以上を測るやや大型の建物や、SH1305のような建物面積6m²未満の小型建物もあり、ばらつきが認められる。竈の設置場所については、建物の北壁か西壁に付いており、一定の規則性が認められる。各竪穴建物跡から出土した遺物については、土師器の高台坏、坏、坏蓋、甕、須恵器の高台坏、坏、皿、高坏、坏蓋、甕、壺等の破片が出土している。

町内の8～9世紀代の著名な遺跡については、平面「コ」の字形状に配置された掘立柱建物跡群が検出され、郡衙関連遺跡として注目されている坊所一本谷遺跡、版築工法によって築かれた堤土塁跡、戦前まで塔の基壇と中心礎石1基、四天柱の礎石4個が存在していた塔の塚廃寺が知られている。これまで檜寺遺跡内では発掘調査を13件実施しており、今回の調査地点から北西方向300m



調査区全景(上が北)



SHI307完掘状況(西から)

地点に位置する8・10・11区の発掘調査では、奈良時代の竪穴建物跡が5軒確認されている。しかし、これまで実施された檜寺遺跡内の発掘調査では、大型の掘立柱建物や礎石建物群、墨書土器、硯等の官衙的な様相を持つ遺構や遺物が確認されていない点から、一般的な集落が形成されていたものと考えられる。(松浦 智)

② 西前牟田遺跡5区

【所在地】三養基郡上峰町大字前牟田字祇園町

【遺跡の時代と種類】古代～近世の集落跡 【調査の原因】分譲宅地造成工事

【調査面積】130m² 【調査主体】上峰町教育委員会 【調査期間】令和2年8月20日～9月11日

【調査概要】

西前牟田遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。この微高地は標高約4～6m付近に位置し、現米多集落付近で沖積地に没するが、本遺跡の一部には上米多貝塚が知られ、南部の沖積地にまたがる一帯は中世城館である米多城跡が所在している。今回の調査対象区域は、目達原丘陵南端部の微高地、標高5m付近に位置し、これまで宅地として利用されていた。

調査の結果、10～11世紀代の井戸跡2基、14～15世紀代の土坑5基、井戸跡3基、16世紀後半から近現代にかけての土坑1基、土壙墓1基、井戸跡1基、性格不明遺構1基、時期不明の井戸跡1基を検出した。調査区の南側で検出したSE513からは、土師器の椀、坏片とともに越州窯系青磁の碗片が出土している。本調査地点から西方向400m地点には、古代・中世の貿易拠点遺跡として知られる吉野ヶ里町下中杖遺跡が所在しており、10～11世紀代の越州窯系青磁碗・皿の他に白磁や緑釉陶器の製品も数多く出土している点から、両遺跡の関係性について注目される。14～15世紀代の井戸跡、土坑からは、土師質土器の土鍋片が数多く出土している。本調査地点から西北方向100m地点には、菊池武敏が延元元年(1336)に太宰府天満宮の分霊を勧請したと伝わる老松神社が所在し、本調査地点周辺の字は「祇園町」であることから、神社の周辺に形成された門前町の様相も推測で



西前牟田遺跡5区調査区全景(上が西)



西前牟田遺跡5区SE513掘削状況(南から)

きる。

これまで西前牟田遺跡内では5件の発掘調査を実施し、古墳時代後期、奈良・平安時代、中世、近世等の各時代の集落跡が部分的に確認されており、徐々に遺跡の様相の把握ができるようになった。今後の調査例の増加を待って、正確な遺跡の評価が出来るよう努めていきたい。(松浦 智)

② 西峰遺跡Ⅰ区

【所在地】三養基郡上峰町大字坊所字西峰 【遺跡の時代と種類】奈良時代～中世の集落跡

【調査の原因】町道改良工事 【調査面積】60 m² 【調査主体】上峰町教育委員会

【調査期間】令和3年3月3日～3月17日

【調査概要】

西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高約8～9m付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。本町と西方の吉野ヶ里町にまたがる目達原丘陵は、戦時中の陸軍飛行場建設に伴い平坦な土地へと改変されているが、それ以前はいくつかの丘陵と谷が入り組んだ複雑な地形を呈しており、一帯の丘陵部には大塚、古稻荷塚、稻荷塚等の前方後円墳が点在し目達原古墳群を形成していた。また本遺跡周辺には、塔の塚廃寺、米多の井伝承地といった古代の遺構も知られている。今回の調査対象区域は、目達原丘陵の南部、標高8m付近に位置しており、これまでは東西方向に450m延びる農道として利用されていた。農道の南北一帯には現在も水田や畑があり、主に耕作地として利用されている。

調査の結果、8世紀前半から中頃にかけての竪穴建物跡Ⅰ軒、13～14世紀代の竪穴建物跡Ⅰ軒、古代～中世の掘立柱建物跡Ⅰ棟、柵列跡Ⅰ条、土坑6基、ピット群等を検出したが、遺構の大半は近代以降の攪乱によって大きく削平を受けている。調査区中央で検出したSH101からは、土師器の坏、甕、須恵器の高台坏、坏蓋、甕等の破片が出土している。調査区西側で検出したSH102からは、土師器の小皿片の他に、鞆の羽口片や鉄滓等の遺物が出土しているが、遺構については大半が調査区外に展開し、また攪乱によって大きく削平を受けており、製鉄に関連する痕跡は確認できなかった。

今回、西峰遺跡では初の発掘調査実施となったが、西峰遺跡を含む三上地区は戦時中の陸軍飛行場建設に伴い、大きく削平され平坦な土地へと改変されているため、遺跡の様相の把握が困難な地域である。今後の調査例の増加を待って遺跡の評価に努めていきたい。(松浦 智)



西前牟田遺跡5区調査区全景(上が西)



西前牟田遺跡5区SE513掘削状況(南から)

3 令和2年度の指定・登録等文化財一覧

種別	名称及び員数	所在地	概要
	指定等年月日	所有者等	
国追加指定	田代太田古墳	鳥栖市	鳥栖市田代本町に所在し、大木川と山下川に挟まれた河岸段丘上に立地する。大正15年11月4日に国の史跡に指定されている。墳丘は、2段築成の円墳と考えられ、内部主体は後室・中室・前室の3室からなる横穴式石室である。装飾壁画が後室奥壁と中室に描かれている。装飾壁画は、赤・黒・緑の三色を用い、岩肌の色調(黄色)を活かしながら効果的に描写される。図形は、同心円文や蕨手文などの幾何学文様、人物像、船や楢など多様である。6世紀中頃から後半の築造と考えられている。このたびは、墳丘裾部の一部が公有化、追加指定された。
国史跡	令和2年10月6日告示	個人	
国登録	永井家住宅店舗兼主屋	唐津市	唐津市呼子町呼子字坊山に所在する。呼子湾沿いの道に東面して建つ二階建、切妻造平入、棧瓦葺の町家である。間口6間半の規模を持ち、正面に持送付の腕木庇を付し、二階外壁を漆喰塗とする。北を床上部、南を通り土間とし、通り土間西半の吹抜に貫を多用した小屋組を現す。外観の正面は大振りな持送り下屋庇を支え、1階正面の柱間には摺上戸等の建具の痕跡が残る。 呼子中心部の町家としては、同じ旧道沿いにある県重要文化財の旧中尾家住宅に次ぐ広さである。本建物の建造は江戸後期に遡ると考えられ、港町呼子における伝統的町並みを代表する町家の一つとして貴重である。
有形文化財(建造物)	令和3年2月4日告示	個人	
国登録	光栄菊酒造通り蔵及び本蔵ほか5件	小城市	小城市三日月町織島に所在する、旧街道に面する酒造施設である。登録となる建造物6件(光栄菊酒造通り蔵及び本蔵、洗い場及び釜場、モトクラ、ムロマエ、旧麹室、煙突)は、通り蔵及び本蔵を中心とする製酒に係る諸施設である。 本蔵は、元々南北方向に並行して建つ木造2階建、半切妻屋根棧瓦葺の大型土蔵で、南北棟の通り蔵と本蔵を東西に並列するものであるが、昭和11年(1936)にその南側5間分を繋いでコの字型状の平面を形成している。本蔵北には下屋が付属し、各蔵とも二列の独立柱を立て、吹抜の接続部は豪壮な小屋組をみせる。南面の大屋根が景観を特徴付けている。 田園風景の中にたたずむ酒蔵と煙突が、地域のランドマークとして歴史的景観を形成していると評価された。
有形文化財(建造物)	令和3年2月26日告示	個人	
佐賀県	鍋島直大像 百武兼行筆 一面	佐賀市	本作は、明治14年(1881)に制作された油彩による肖像画で、像主は鍋島直大(1846～1921年、当時35歳)である。直大は大礼服を着用、佩刀し、旭日章とイタリア王冠勲一等大綬章を佩用した駐伊特命全権公使としての姿で描かれる。作者の百武兼行(1842～1884年、制作当時は39歳)は、嘉永3年(1850年)以降、終生直大の側近として仕えた人物で、直大のイギリス留学に従った際に本格的な油彩技法に触れ、以降、イギリス、フランス、イタリアの三か国で油彩画を学んだ。百武の画歴後半にあたるイタリア時代に描かれた本作には、三か国を経て段階的に行われた珍しい学習の遍歴とその成果がよく現れ、像主が百武の画歴と人生に深く関与した鍋島直大である点でも、百武の画業における重要性は極めて高い。 本作は、百武がイタリアで手掛け現存する大作5点のうちの一ことで、作者・像主・制作年が明らかな県内所在の油彩肖像画として最も古く、稀少である。更に、明治期の外交における対欧戦略の研究にも示唆を与えるものとしても重要で、日本公使館で催された大舞会で本作を展示した直大は、現地の風習や考え方等に沿う趣向の中で日本の風情を味わわせる手法を用いて賓客達から称賛を受けた。 イタリア時代における百武が示した、表層の技術に留まらず素地を踏まえて受容と応用・進展を試みる志向は、直大とその側近である百武のスタンスを窺い知る手がかりとしても有用である。
重要文化財(絵画)	令和3年5月17日告示	公益財団法人鍋島報効会	

種 別	名称及び員数	所在地	概 要
	指定等年月日	所有者等	
佐賀県 重要文化財 (典籍)	東遊歌風俗歌譜 Ⅰ巻	佐賀市	<p>本資料は、東遊歌と風俗歌という二種の古代歌謡の譜の写本である。東遊歌は古代東国の歌舞が宮廷で奏された歌謡で、風俗歌は平安貴族の間で奏された地方の歌謡である。</p> <p>本文は、行間の置き方や目録の書き方などから、2つの東遊歌と3つの風俗歌で構成されている。また、風俗歌三十三曲の中には重複する曲もあり、本資料が三種の別譜の集成的内容をもつことが窺える。本文はすべて同筆で整然と筆写された善本であり、字配りにも歌譜らしい配慮が行き届いた平安期の古譜で、保存状態も良好である。書写時期は筆跡と紙質から平安時代後期とされ、鎌倉時代は下らないとみられる装丁や書体から12世紀と考えられ、能筆で優美な書風をもつ。本資料の伝来は未詳だが、明治10年代後半～20年代頃に宮内省式部長を務めていた鍋島直大が同家にもたらした可能性が考えられる。</p> <p>本資料のうち、風俗歌は平安時代まで遡る書写本では最も豊富な情報量をもち、その構成・内容ともに貴重である。また、風俗歌は善本に恵まれず、研究対象となるテキストすら定まっていなかったため、本資料は大きな意味を持ち、今後風俗歌をもとより、東遊歌も歌謡史及び音楽史分野における研究の進展が期待できる。また、鍋島直大による伝来が窺える経緯から、古譜の受容・伝承を担った近代華族の役割を示唆する素材である点においても、価値が高い。</p>
	令和3年5月17日告示	公益財団法人 鍋島報效会	
佐賀県 重要文化財 (建造物)	石造肥前鳥居 Ⅰ基	杵島郡白石町	<p>稲佐神社は、杵島郡白石町の西部、稲佐山の東側中腹に位置する。その創建時期は不明であるが、平安時代初期にはすでに祀られていたとされる町内最古の神社の一つである。肥前鳥居は、室町時代から江戸時代初期にかけて肥前国を中心に築造され、佐賀県を主として長崎県や福岡県の一部に分布する。その造形は、笠木と島木が一体化して笠木の鼻が流線形にのび、笠木・島木・貫、柱が原則的に3本継ぎとなる。また、柱の下部に龜腹を設けず、柱の下部を削り出して地面に生け込み、柱上部には台輪を付け楔を設けない点に特色がある。</p> <p>稲佐神社の肥前鳥居(四の鳥居)は天正13年(1585)の銘を有する最古期のものであり、肥前鳥居の特徴をよく備えている。高さは約3.8m、笠木の長さは4.5mである。組み合う石柱部材の材質や笠石左右の鼻の見付における意匠に相違も認められるが、下半部に重心をもち重厚で安定感のある容姿をもち、上部構造である笠石や貫の軽やかで華奢な造形など、部材の素材・形状等が原初的な肥前鳥居を考えるうえで多くの情報を有している。本鳥居は、石造肥前鳥居の分布やその様式、建立に係る発展経過を考えるにあたり種々の示唆を伝えるものとして価値が高い。加えて、神仏習合の古い歴史を有する稲佐神社の社頭景観を特徴づけるものとして重要である。</p>
	令和3年5月17日告示	宗教法人 稲佐神社	
佐賀県 重要文化財 (考古資料)	磯道遺跡出土石器接合資料 7個体	唐津市	<p>磯道遺跡は、佐賀県唐津市肥前町入野字磯道に所在し、東松浦半島西側沿岸、伊万里湾に面した入野半島の丘陵上(標高128～129m)に位置する旧石器時代及び縄文時代の遺跡である。</p> <p>本資料は、後期旧石器時代の石器製作技術が把握できる石器接合資料7個体である。素材は長崎県松浦市の星賀半島で産出する牟田産黒曜石の円礫を使用している。大きさはいずれも拳大で、重量は約100グラム～440グラムである。接合点数は最大で51点に及び、原石に近い形まで復元できるものもある。</p> <p>7個体の接合資料は、いずれも小口部分に打面を設け原礫面を除去後、作業面調整や頭部調整を介在させながら縦長剥片(石刃)を剥離し、ナイフ形石器や台形石器、彫器などの石器を製作している。石核にナイフ形石器や台形石器等の製品が接合することから、原石から素材剥片を剥離し製品になるまでの全ての工程が把握できる。本資料のように、小口方向から一方向に剥片剥離を行い、定形的な縦長剥片(石刃)を連続的に剥離する技術は「磯道技法」と呼ばれ、西北九州に特徴的な黒曜石の石刃技法として学史的に評価されている。</p> <p>本資料は、佐賀県の後期旧石器時代における石器製作技術を具体的に証明できる希少な例であり、佐賀県のみならず西北九州における後期旧石器時代の文化を解明するうえで価値が高い。</p>
	令和3年5月17日告示	唐津市教育委 員会	



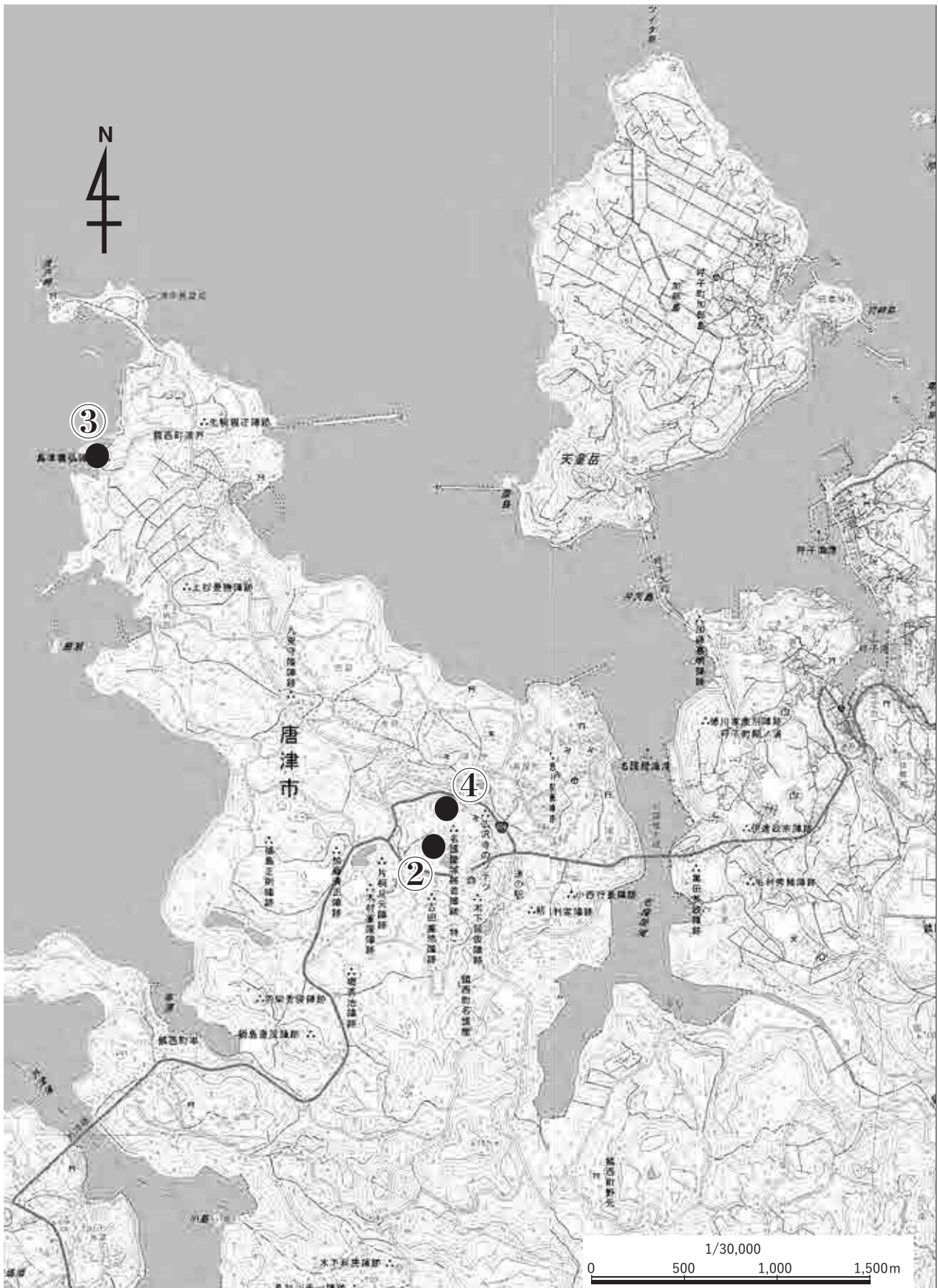
石造肥前鳥居(稲佐神社)

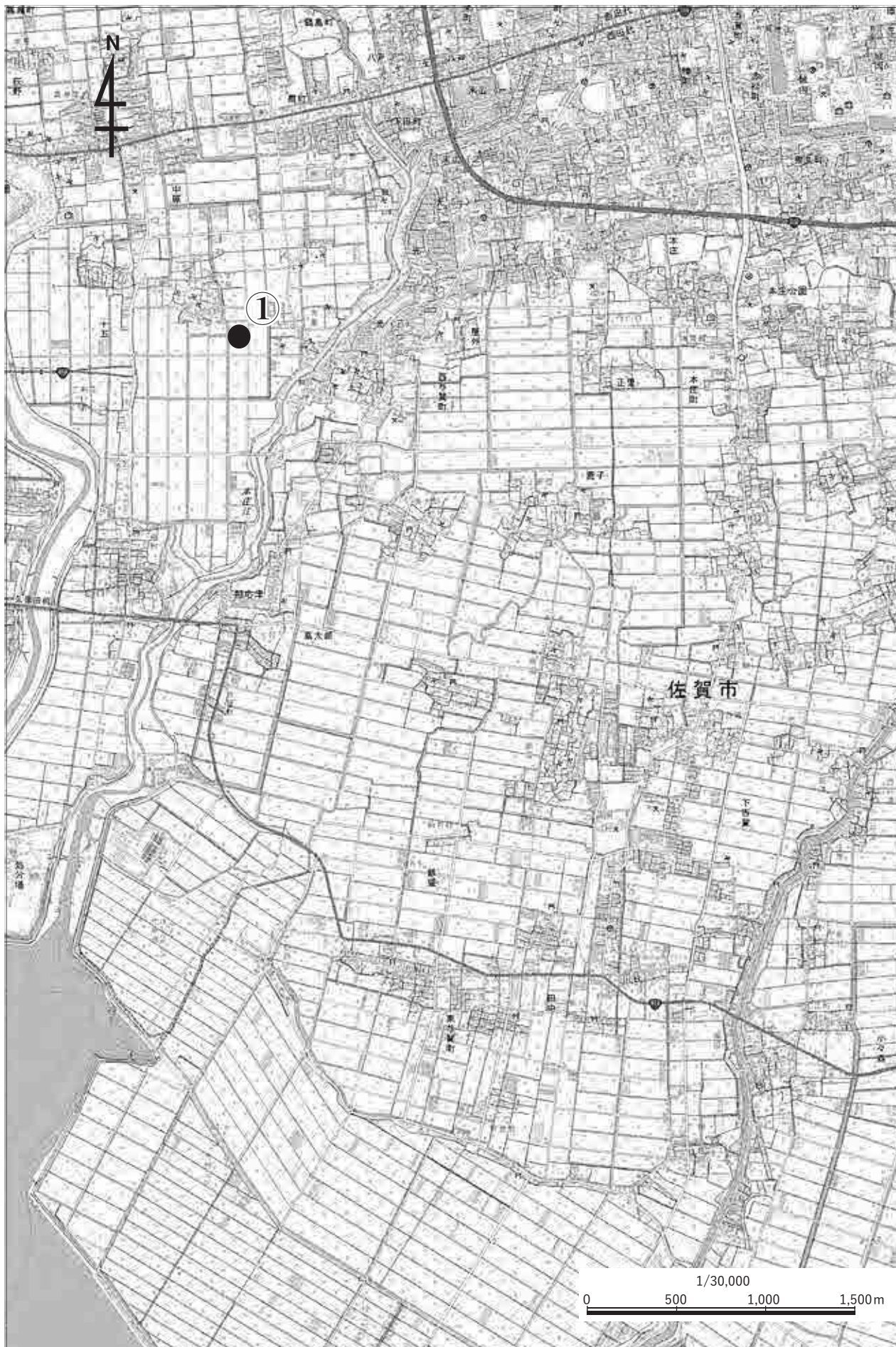


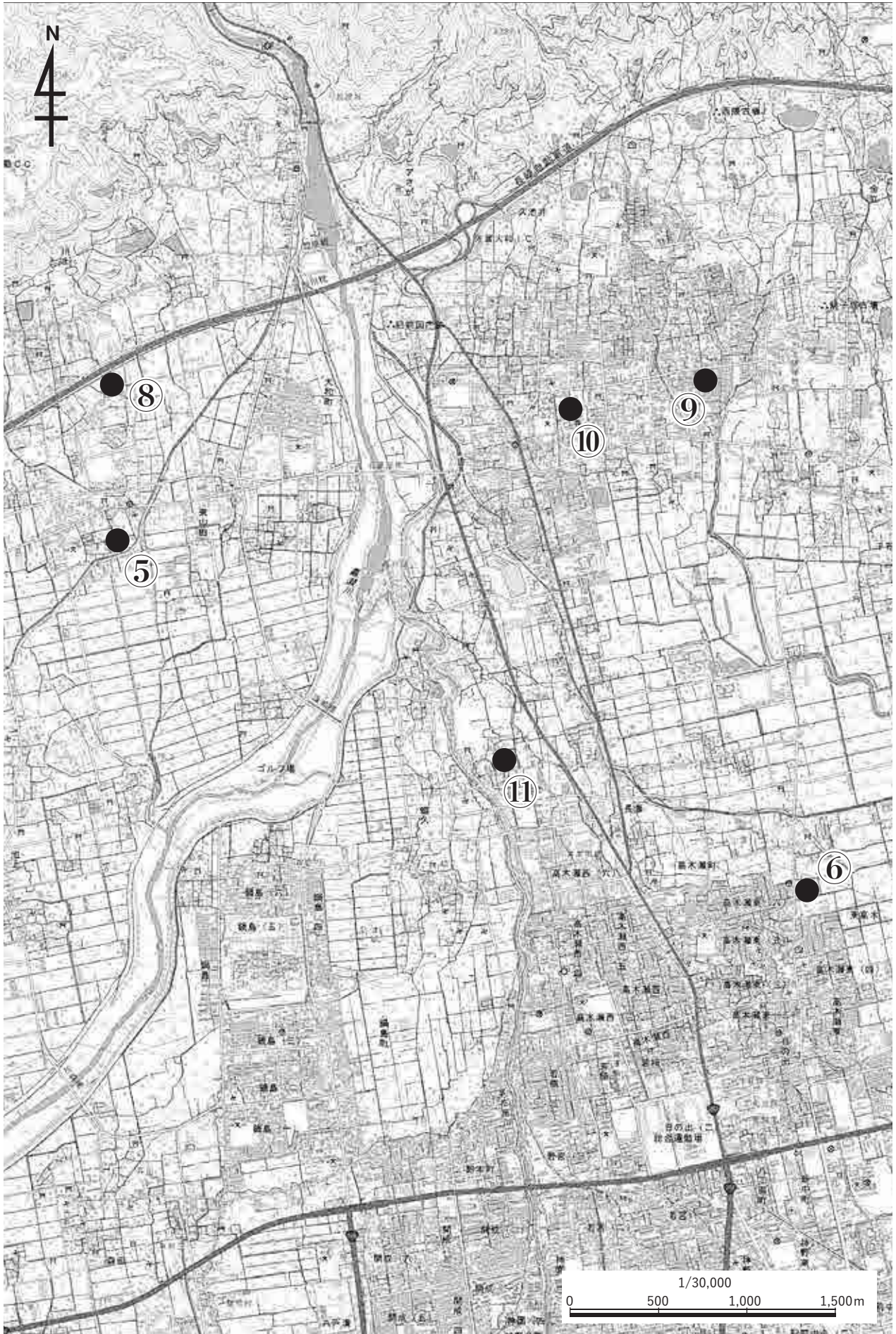
磯道遺跡出土石器接合資料(唐津市教育委員会蔵)

4 所載遺跡位置図

図中の丸数字は、本書20頁の所載遺跡一覧表における各遺跡に付した番号に対応している。

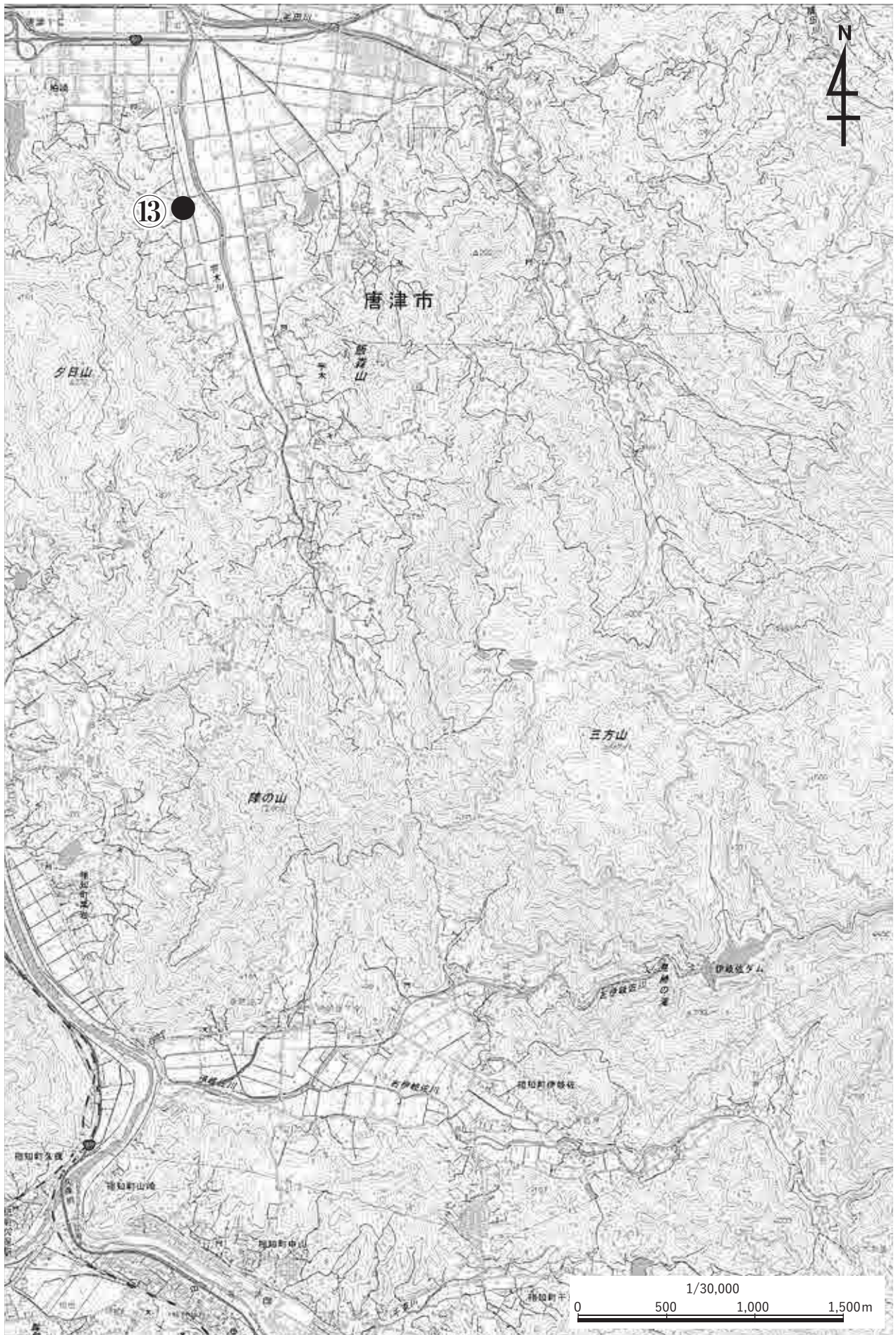




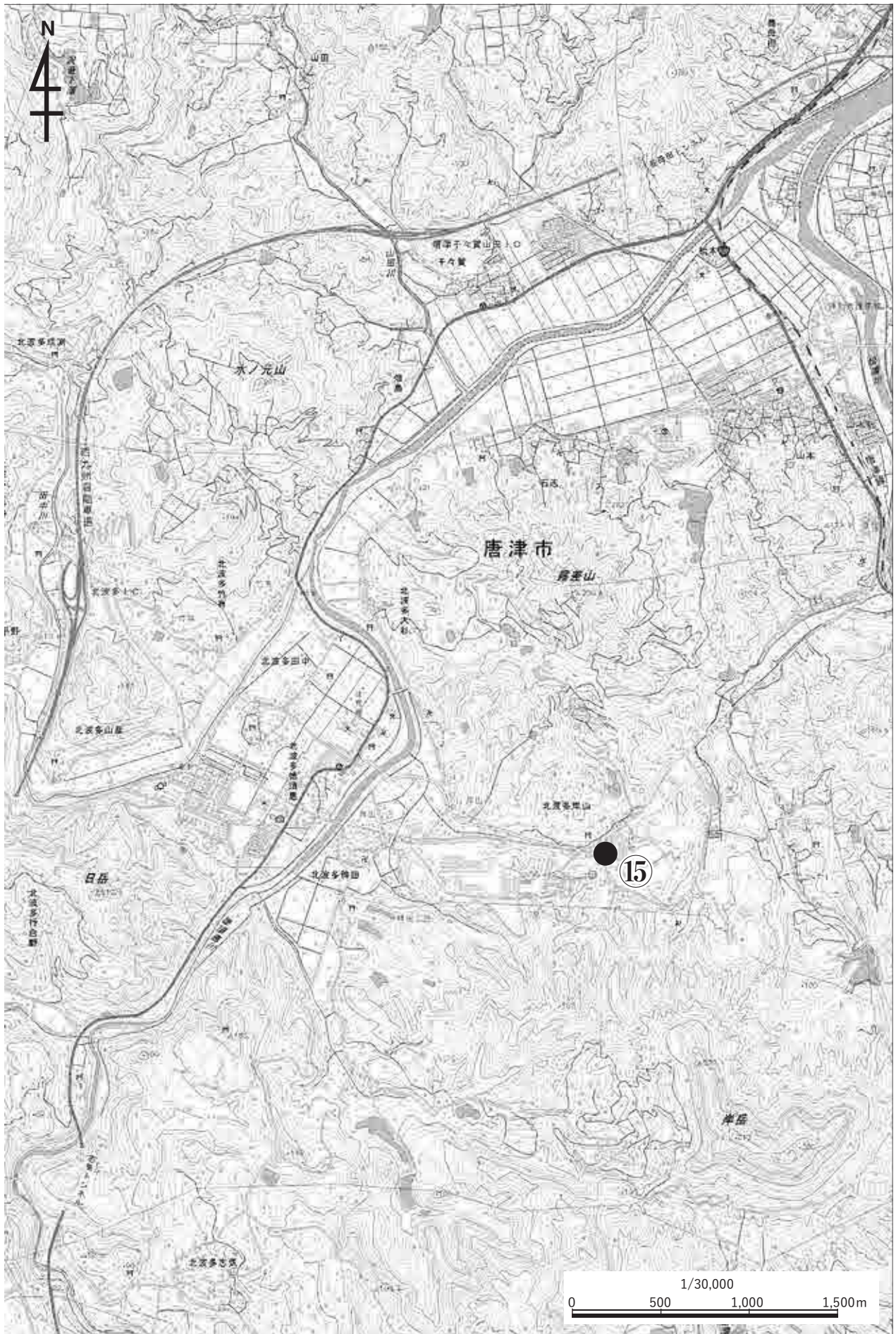


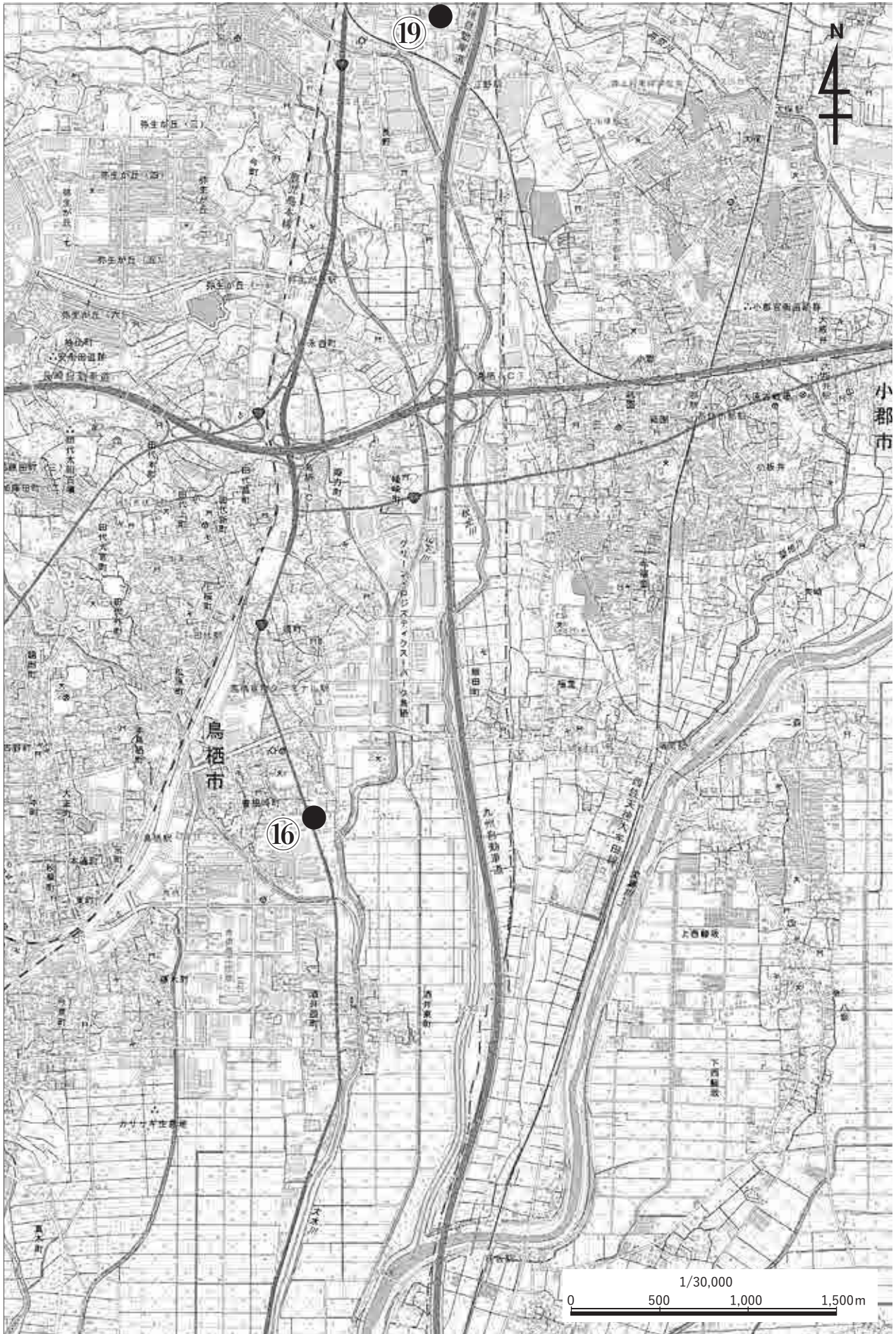


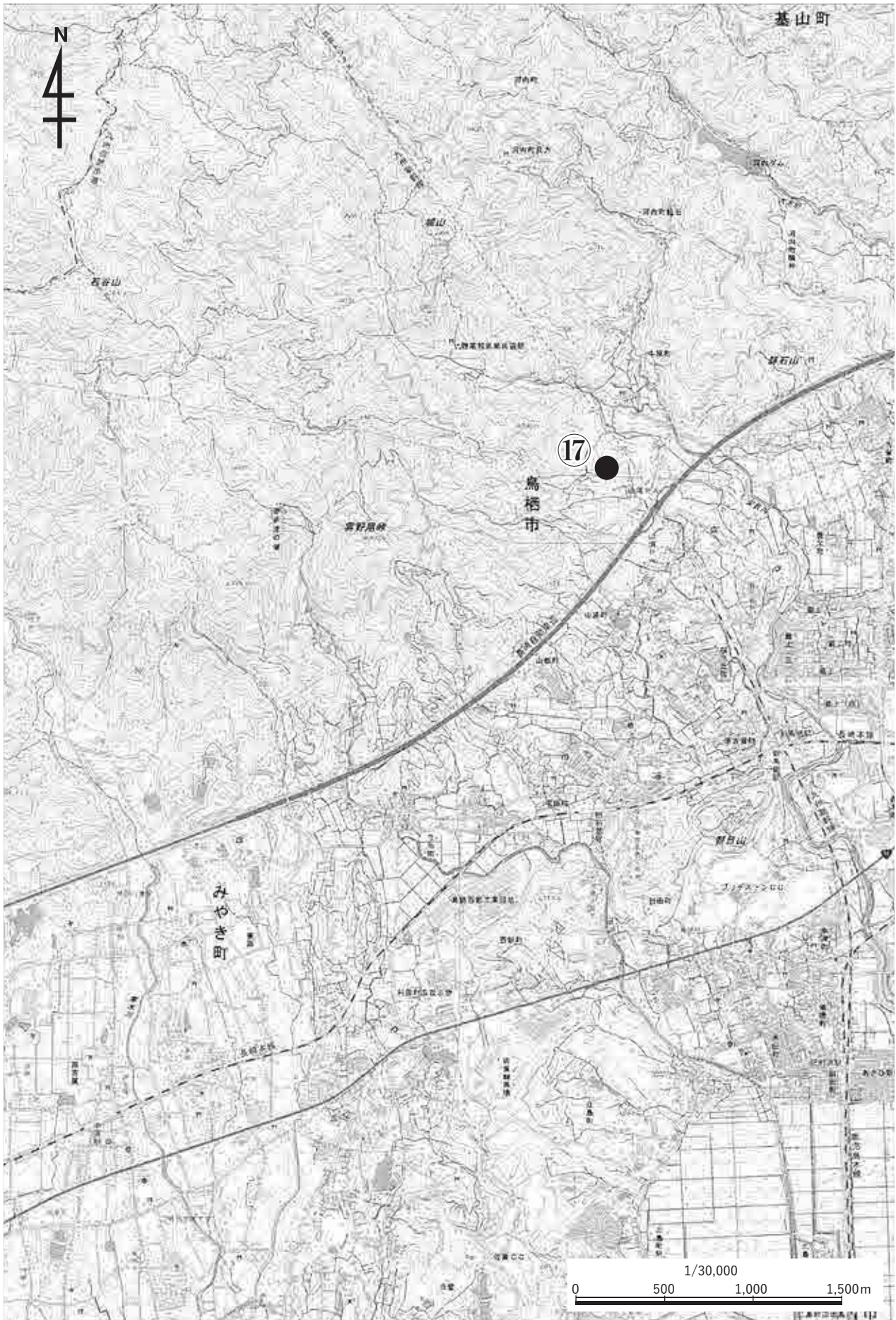


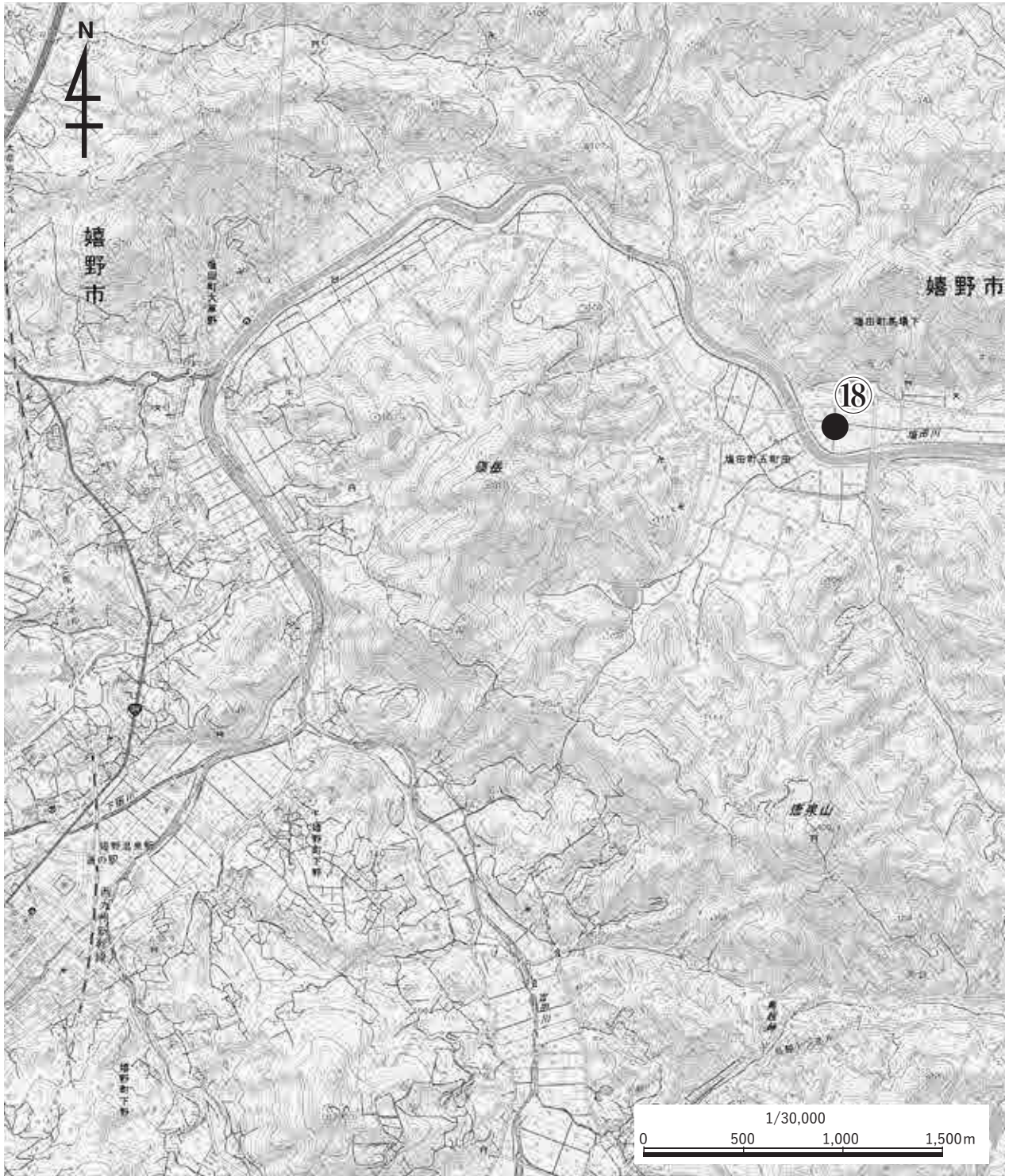


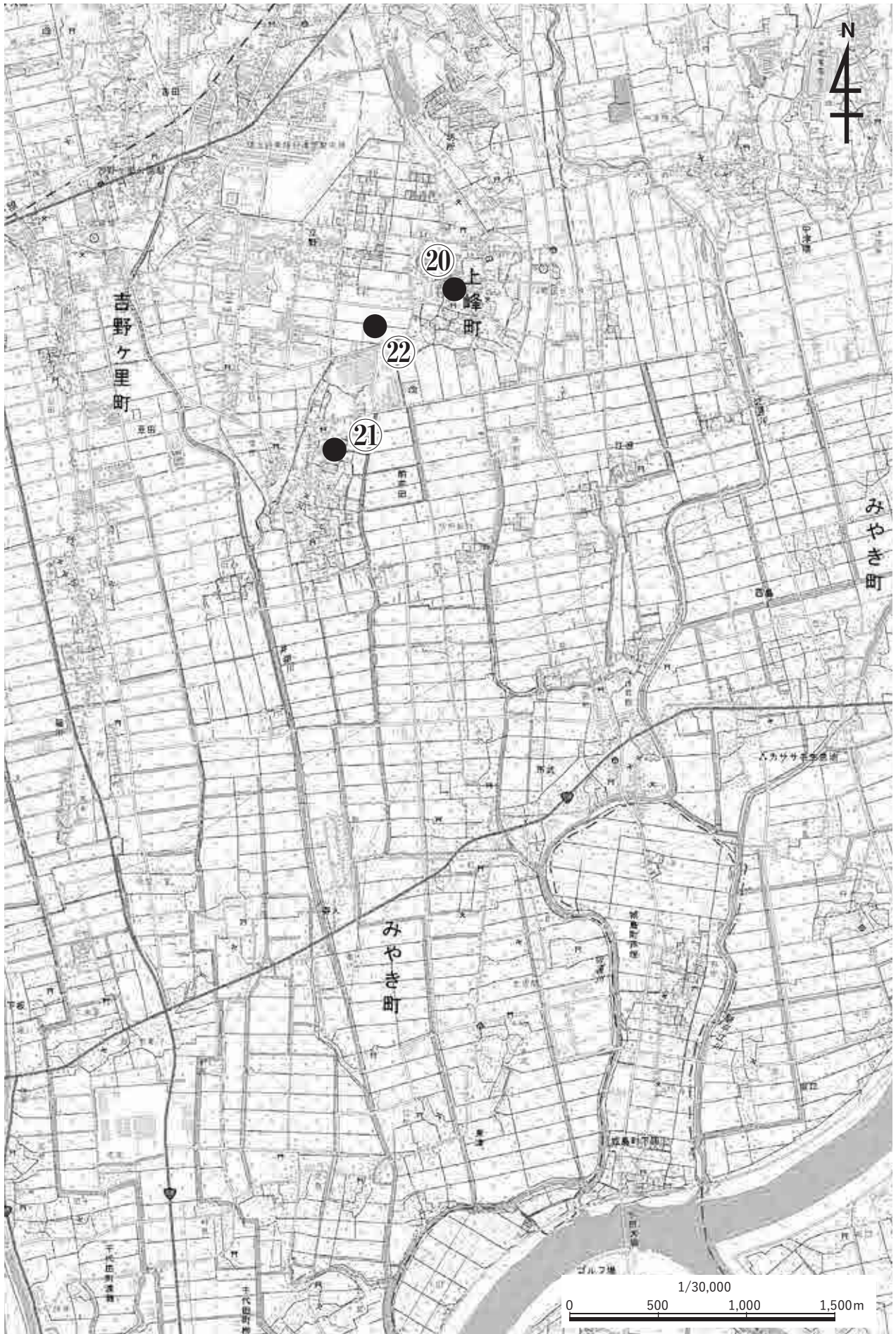












佐賀県文化財年報 16 (2020 年度)

発行年月日 令和4年(2022年)3月31日

発行 佐賀県 地域交流部 文化・スポーツ交流局
文化課 文化財保護室

〒840-8570 佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

TEL (0952)25-7232 FAX (0952)25-7321